山武郡市広域水道企業団

Sanbugunshi Water Supply Authority

五十年のあゆみ

50th Anniversary

50th
Anniversary

企業団設立 50 周年を迎えて

山武郡市広域水道企業団
企業長　松　下　浩　明

山武郡市広域水道企業団は、昭和 49 年 3 月に当時の東金市、大網白里町、九十九里町、成東町、松尾町、横芝町及び蓮沼村の 1 市 5 町 1 村を構成団体として、地域における水道の普及整備を図り、もって環境衛生の向上、住民福祉の増進に寄与することを目的として設立され、令和 6 年 3 月で 50 周年を迎えることができました。

この間、当企業団の事業運営に御支援、御尽力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

当企業団は、昭和 49 年度から 6 ヵ年計画で水道創設事業を行い、昭和 55 年 4 月から創設地域の全区域に給水を開始して以来、令和 5 年度末では、149,775 人のお客さまに、安全で安心な水の安定供給という水道事業の使命を果たしてまいりました。

現在、人口減少により給水収益が減少している一方、これまで整備してきた水道施設の老朽化対策に加え、頻発する自然災害、多様化するお客様ニーズ、環境問題への対応も求められているところです。このような中、水道施設を計画的に更新するとともに、事業の効率化と健全な財政基盤の確立を図りながら「中長期経営プラン 2016」の基本理念として掲げた「次世代へつなぐ強靭で安心な水道」の実現に向け、職員一丸となって全力で取り組んでおります。

このたび、50 周年の節目を迎え、これまでの歩みを後世に伝えるとともに、当地域の水道事業に携わった先人の業績を綴るため記念誌を刊行いたしました。本書が当企業団に対する皆様の御理解を深め、少しでも地域発展の御参考になれば誠に幸いと存じます。

今後とも、皆様方の一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 3 月

山武郡市広域水道企業団　５０年のあゆみ

目　　次

はじめに　……　1

第１章　50年の歩み　……　3
第１節　水事情
第２節　設立の経緯
第３節　創設事業
第４節　沿革
第５節　災害を教訓とした取組

第２章　水源・施設の概要　……　20
第１節　九十九里地域の水道用水供給
第２節　水道施設の概要
第３節　配水管の概要

第３章　経営方針　……　39
第１節　水道事業ビジョン・経営戦略（中長期経営プラン）
第２節　経営状況

第４章　構成市町　……　45

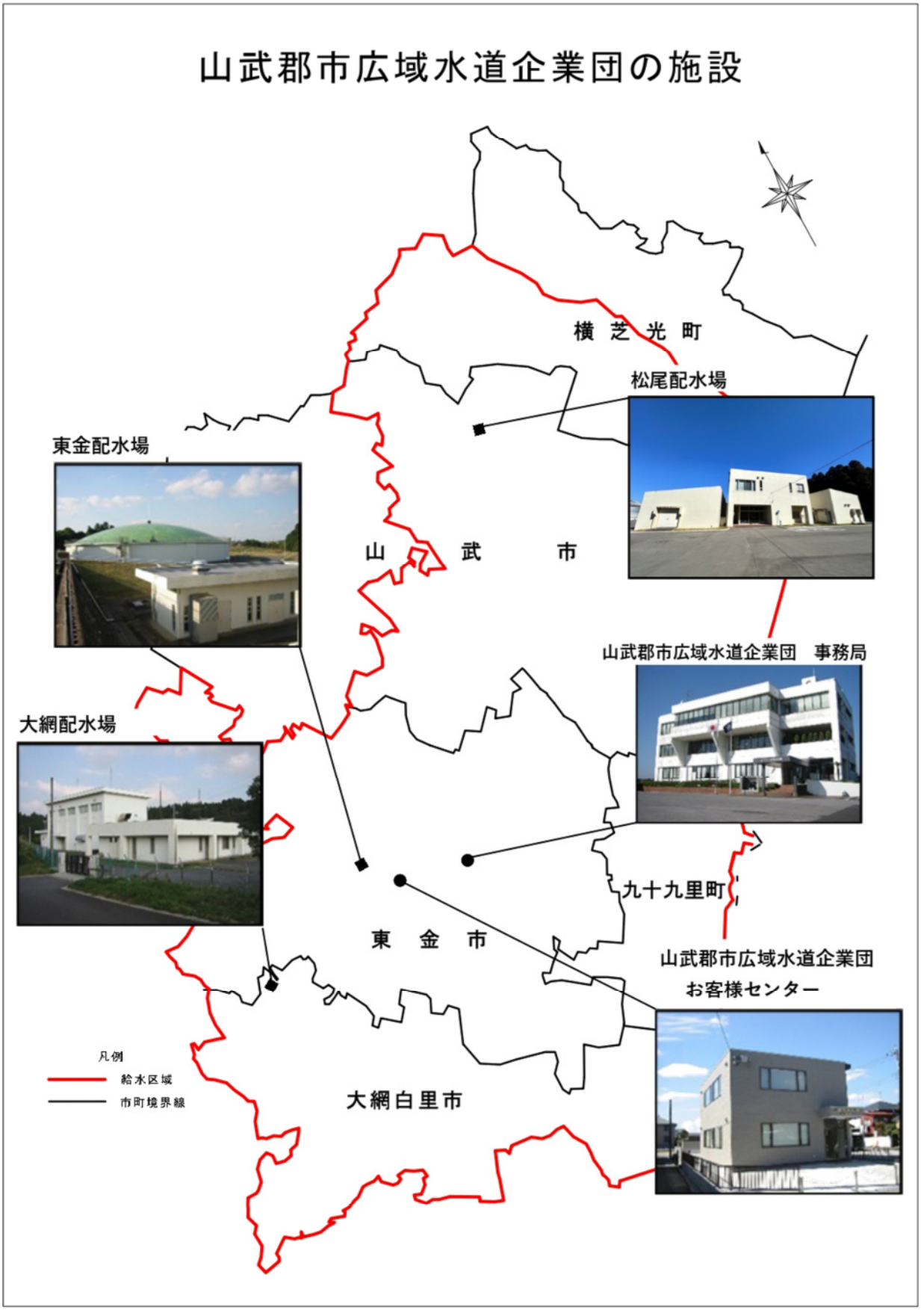
資料編　……　50

山武郡市広域水道企業団

山武郡市広域水道企業団は、昭和49年3月に7市町村（東金市・大網白里町・九十九里町・成東町・松尾町・横芝町・蓮沼村）により設立され、給水区域内の皆様に安心で安全な水道水を安定して供給し、環境衛生の向上、住民福祉の増進に寄与することを基本方針として運営してまいりました。

平成18年の市町村合併により山武市、横芝光町が誕生し、平成25年の市政施行により大網白里市が誕生したことに伴い、現在の給水区域は東金市・山武市（成東・松尾・蓮沼地区）・大網白里市・九十九里町・横芝光町（横芝地区）の3市2町となっています。

山武郡市広域水道企業団の施設



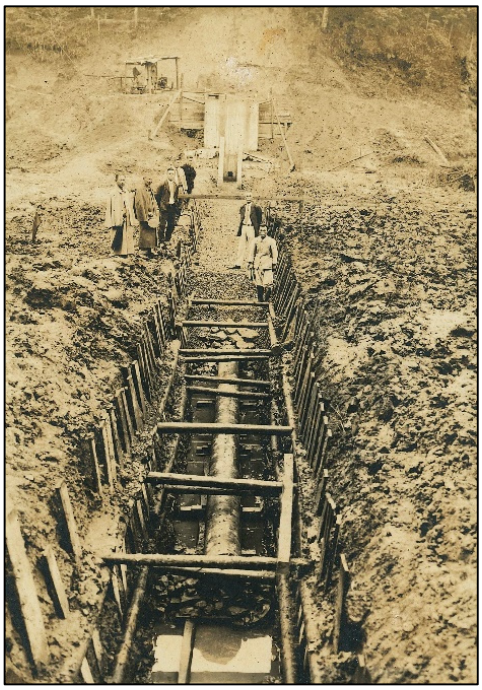
第 1 章　50 年のあゆみ

第 1 節　水事情

山武地域は地勢的に、水道用の水源に恵まれないため、平野部では少量の地下水を浅井戸により確保して利用していましたが、海水の侵入等の汚染を受けやすい環境でした。また、市街地には既存の水道として、東金市営水道（昭和 4 年設立）・大網白里町営水道（昭和 39 年設立）・成東町営水道（昭和 29 年設立）が存在しましたが、経済活動の著しい進展とともに生活雑排水、産業排水及び各種農薬等によって水道用水源である河川や井戸水の汚濁が進行するなど、公衆衛生上見逃せない状況となっていました。

このような背景から住民福祉の向上と地域の発展を図るため、生活用水として清浄で安定した上水道を確保するための水道施設は地域住民にとって長年の願いでした。

昭和 5 年当時の東金町営水道の風景



第二貯水池建設工事

谷浄水場建設工事

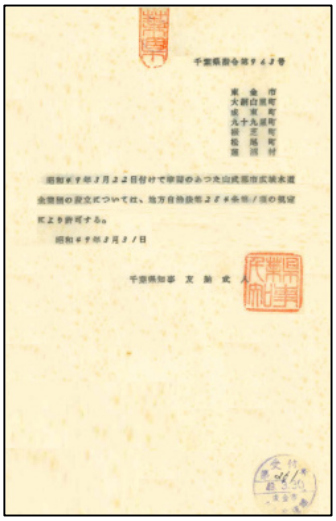
谷浄水場完成式典

第 2 節　設立の経緯

千葉県では、地域の生活環境の改善、公衆衛生の向上及び地域発展の基幹事業として、上水道の普及促進が検討されていました。昭和 42 年には九十九里地域で大規模な水源調査が実施され、その結果、表流水や地下水の利用が期待できず、利根川に水源を求めなくてはならないとの結論に達しました。

利根川からの導水は大変な難事業で、市町村レベルではとても不可能と思われましたが、同時期に京葉工業地帯への工業用水を利根川から導水する計画が水資源開発公団（現在の水資源機構）から提起されました。これに伴い、利根川の水の総合的な運用を図るため協議を重ねた結果、昭和 45 年に利根川水系水資源開発基本計画の一環として、「房総導水路事業」が施行されることとなりました。

この導水路から取水し、水道用水供給事業※1 を行うため、昭和 46 年に「九十九里地域水道企業団」が設立されました。この九十九里地域水道企業団から水道用水の供給を受け末端給水事業※2 を行うため、昭和 48 年 2 月に「山武郡市広域水道企業団準備室」が発足し、昭和 49 年 3 月 27 日に東金市・大網白里町・九十九里町・成東町・松尾町・横芝町・蓮沼村の 7 市町村により「山武郡市広域水道企業団の設立に関する基本協定」が締結され、同月 31 日の地方自治法第 284 条第 1 項に基づき、一部事務組合設立許可を得て「山武郡市広域水道企業団」が設立されました。



山武郡市広域水道企業団　設立許可書

※1 水道用水供給事業：河川やダムなどから取水して、水道用水を作り末端給水事業体（市や町、一部事務組合などが経営）に対して水道用水を供給する事業

※2 末 端 給 水 事 業：水道利用者に水道水を給水する事業

第 3 節　創設事業

企業団設立後、給水区域全域での早期の給水開始を目指し、昭和 49 年から昭和 54 年までの 6 カ年にわたる創設事業を計画し、昭和 49 年度に工事を着手しました。

この事業は、東金、大網、成東、松尾の 4 配水場の建設工事及び給水区域全域の配水管整備工事(φ600mm～φ150mm、延長 198km)及び配水支管布設工事(φ150mm～φ50mm、延長 630km)という膨大な計画でしたが、構成市町村及び住民の方々の多大なご協力により、昭和 52 年 7 月 1 日には用水供給事業体である九十九里地域水道企業団からの受水による給水が横芝町、蓮沼村の一部で開始され、昭和 54 年度には高台地区の一部を除き給水区域全域で給水が開始されることとなりました。

また、昭和 49 年以前に東金市、大網白里町、成東町が市街地の一部で行っていた水道事業の施設は当企業団が引き継ぎましたが、老朽化が著しく赤濁水や漏水が絶えない状況のほか生活水準の向上による水需要の増大から水圧が不足する地区も見られたため、昭和 51 年から既存の配水管の改良工事を開始しました。

創設事業基本計画

区　分 ＼ 事業名	創設事業
認可年月日	昭和 49 年 7 月 22 日
目標年次	昭和 55 年
計画給水人口（人）	198,000
計画一日最大給水量（㎥）	87,000
計画一人一日最大給水量（L）	440
計画一人一日平均給水量（L）	350
事業費（千円）	15,270,000
事業期間	昭和 49 年 7 月～昭和 55 年 3 月
給水年月日	昭和 49 年 4 月 1 日　一部給水開始（既設区域）
	昭和 55 年 4 月 1 日　全区域給水開始
水源状況（㎥/日）	東金地区既設水量　9,000
	成東地区既設水量　500
	九十九里地域水道企業団より受水　77,500

■創設事業の建設状況

建設中の東金配水場

配水管布設替事業

配水管整備事業

事務局庁舎

通水開始・庁舎落成記念式典

■市・町営水道から引き継いだ水道施設（廃止当時の住所のため旧町名）

雄蛇浄水場（東金市小野）

昭和33年完成・昭和60年廃止
（施設能力　800㎥/日）

谷浄水場（東金市東金）

昭和5年完成・平成3年廃止
（施設能力　1,300㎥/日）

小井戸浄水場（東金市松之郷）

昭和29年完成・平成9年廃止
（施設能力　4,200㎥/日）

津辺浄水場（成東町津辺）

昭和39年完成・平成3年廃止
（施設能力　500㎥/日）

小中浄水場（大網白里町小中）

昭和44年完成・平成10年廃止
（施設能力　1,300㎥/日）

第 4 節　沿革

年	月		山武水道	主な出来事
昭和	48	2	山武郡市広域水道企業団準備室が発足	第一次オイルショック（昭和48.10～昭和49.8）
	49	3	地方自治法第 284 条第 1 項による一部事務組合設立許可（千葉県指令第 963 号） 東金市営水道（昭和 4 年設立）、大網白里町営水道（昭和 39 年設立）、成東町営水道（昭和 29 年設立）を同時に合併 事務局を大網白里町大網 115-2（大網白里町役場内）に設置	
		7	水道法第 6 条第 1 項による水道事業経営認可（厚生省環第 559 号） 創設事業着手	
	50	4	事務局を東金市東金659-1（山武郡市振興センター内）に移転	
	51	1	事務局を東金市松之郷2333（旧両総土地改良区事務所内）に移転 非常用自家発電設備の設置（東金・大網・松尾配水場）	
	52	3	新庁舎の建設工事に着手	
		7	創設地域の一部を給水開始 給水地域：横芝町（栗山・鳥喰新田・鳥喰上・鳥喰下・鳥喰沼・屋形・新島・北清水）・蓮沼村（殿下東部）	
		11	新庁舎の建設工事が完成	
		12	事務局を東金市家徳361-1に移転	
	53	3	四配水場遠方監視制御設備完成	第二次オイルショック（昭和53.10～昭和57.4）
		8	直営による水質検査開始	

年　月			山武水道	主な出来事
昭和	54	4	配水管整備事業着手	
	55	3	創設事業工事完成	
		4	全区域に給水開始	
	58	3	配水管整備事業完了	
	59	3	設立10周年を迎える	
	62	6	利根川水系上流ダムの貯水量低下による給水制限を実施（渇水：給水制限 最大30%）	
		12	千葉県東方沖地震（水道施設に甚大な被害を受ける） ・河川への重油流出により水道用水供給事業体からの送水が停止されたため全域断水	千葉県東方沖地震（震度5）の発生（昭和62.12）
	63	10	開発負担金制度導入	
平成	元	4	水道料金改定【平均改定率約6%】	消費税3%導入（平成元.4）
	2	7	利根川水系上流ダムの貯水量低下による給水制限を実施（渇水：給水制限 最大20%）	
	3	4	水道料金徴収事務民間委託開始 上下水道オンラインシステム稼働	
	4	2	「長期事業計画」を策定	
	6	3	設立20周年を迎える	
		8	利根川水系上流ダムの貯水量低下による給水制限を実施（渇水：給水制限 最大30%）	

年　月			山武水道	主な出来事
平成	7	1	阪神・淡路大震災被災地へ応急給水のため職員及び給水車の派遣（23日間） ・人員8名（延べ58人）・給水車（2t）1台	阪神・淡路大震災（震度7）の発生（平成7.1）
		3	消毒剤を塩素から次亜塩素酸ナトリウムに変更	
	8	8	利根川水系上流ダムの貯水量低下による給水制限を実施（渇水：給水制限 最大30%）	
				消費税が3%から5%に増税（平成9.4）
	12	3	東金配水場遠方監視制御設備更新	
		4	水道料金改定【平均改定率約19%】 （逓増従量料金制の導入）	
	13	2	「水道事業基本計画」を策定	
	14	1	企業団における「災害対策実施計画」（平成13年10月策定）に基づく水道災害対策訓練を実施	
		9	石綿セメント管路更新事業着手	
		10	企業団ホームページ開設	
	15	4	お客様センターを東金市東上宿12-13に開設	
	16	3	設立30周年を迎える	
		10	水道資器材備蓄倉庫（東金配水場内）が完成	新潟県中越地震（震度7）の発生（平成16.10）
	17	4	事務局用地を東金市家徳361-8に変更登記	
	18	3	管路情報システム運用開始 「後期水道事業5か年計画」を策定 成東町、山武町、松尾町及び蓮沼村が合併し山武市に、横芝町及び光町が合併し横芝光町となる（2市3町の構成となる）	

年　月			山武水道	主な出来事
平成	22	12	「地域水道ビジョン2010」を策定	
	23	3	東日本大震災（水道施設に甚大な被害を受ける） ・配水管の破損等のため山武市及び横芝光町で断減水	東日本大震災（震度7）の発生（平成23.3）
		8	水道料金コンビニ収納開始 料金徴収システム運用開始	
		12	「中期経営計画」を策定	
	25	1	大網白里町が市制施行し大網白里市となる （3市2町の構成となる）	
	26	3	設立40周年を迎える	消費税が5％から8％に増税（平成26.4）
	27	6	石綿セメント管路更新事業完成	
		9	重要給水施設配水管耐震化事業着手 県内水道の統合・広域化の進め方（取組方針）を県が公表	
	28	3	「中長期経営プラン2016」を策定 九十九里地域末端給水事業で「県内水道の統合・広域化の進め方に係る九十九里地域水道事業体会議」を設置し、検討開始	熊本地震（震度7）の発生（平成28.4）
		10	基幹管路配水管耐震化事業着手	
	30	3	「水安全計画」を策定	平成30年北海道胆振東部地震（震度7）の発生（平成30.9）
		10	配水場施設耐震化計画着手	
令和	元	9	房総半島台風 ・水道用水供給事業体施設の停電により送水が停止されたため全域断水	房総半島台風の発生（令和元.9）

年		月	山武水道	主な出来事
令和	元	10	東日本台風被災地へ応急給水のため職員及び給水車の派遣（6日間） ・人員4名（延べ16人）・給水車（2t）1台・給水袋400枚	消費税が8％から10％に増税（令和元.10）
	4	6	マスコットキャラクター「さんすいちゃん」を商標登録	
	5	9	水道料金スマートフォン収納開始	千葉県が誕生150周年を迎える（令和5.6）
	6	1	能登半島地震被災地へ応急給水活動支援のため組立式給水タンクを貸与 ・人員2名（タンクの運搬）・組立式給水タンク（1㎥）2台	令和6年能登半島地震（震度7）の発生（令和6.1）
		3	非常用自家発電機の設置（事務局庁舎） 設立50周年を迎える	

第５節　災害を教訓とした取組

1 被害状況

■千葉県東方沖地震

昭和62年12月17日11時8分、千葉県東方沖を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生し千葉市、勝浦市、銚子市で震度5を観測しました。

地震による水道施設の破損等に加え、栗山川への重油流出（二次災害）により、水道用水供給事業体である九十九里地域水道企業団の取水が停止した影響で、給水区域全域が断水となり復旧までに約7日間かかりました。

【断水区域】給水区域全域
【断水戸数】東　金　市：約11,000戸　　大網白里町：約8,000戸
九十九里町：約5,000戸　　成　東　町：約5,000戸
横　芝　町：約3,000戸　　松　尾　町：約2,000戸
蓮　沼　村：約900戸
【断水期間】12月17日から12月23日まで

■東日本大震災

平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生し、太平洋沿岸部を巨大な津波が襲い甚大な被害をもたらしました。

給水区域内で最大震度5強を観測し、企業団の主要な配水管等や九十九里地域水道企業団の送水管の破損に加え、停電により光浄水場の運転が停止した影響で山武市と横芝光町の全域にわたって断減水となり復旧までに約5日間かかりました。

【断水区域】山武市及び横芝光町
【断水戸数】山武市：約11,000戸　　横芝光町：約3,000戸
【断水期間】3月11日から3月15日まで

応急給水活動
（山武市役所）

応急給水活動
（横芝光町役場）

破損した配水管
（山武市和田地先）

■令和元年房総半島台風

令和元年9月9日、「非常に強い」勢力を保ったまま千葉市に上陸した台風の影響により、千葉県で最大64万戸が停電し完全に復旧するまでに19日間かかりました。

九十九里地域水道企業団の浄水場への電力供給が途絶え送水が停止した影響で、給水区域全域が断水となり、復旧までに約3日間かかりました。

【断水区域】給水区域全域
【断水戸数】東　金　市：約25,000戸　　山　武　市：約11,000戸
大網白里市：約19,000戸　　九十九里町：約6,000戸
横 芝 光 町：約4,000戸
【断水期間】9月9日から9月11日まで

応急給水活動

東金市役所

大網白里市役所（提供：大網白里市）

2　災害に備えて

これまで経験した災害を教訓に、通常時はもとより災害時における効率的な水運用を図るため、老朽化した水道施設の更新や設備の改修と併せて計画的に耐震化を実施しています。

■配水施設の更新及び耐震化

災害時においても効率的な水運用を図るため、各配水場には地震動レベル2※に対応した配水池が1池以上あります。その中でも、令和元年度にステンレス鋼で築造した松尾配水場3号配水池が最も新しい施設です。

創設期に建設した施設は、経年劣化により老朽化が進み更新時期を迎えているため、設備状況や故障具合などを考慮し、優先順位を決め費用の平準化を図りながら、延命を主体とした大規模改修や点検整備を行うこととしています。

松尾配水場 3 号配水池築造工事
（令和元年度）

東金配水場遠方監視制御設備更新
（令和 5 年度）

東金配水場 4 号配水池内面補修塗装工事
（令和 4 年度）

※当該施設の設置地点において発生するものと想定される地震動のうち、最大規模の強さを有するもの

■配水場場内連絡管更新事業

配水場場内連絡管更新事業では、水道施設の心臓部ともいえる配水場内の連絡管を耐震化することで、災害に強い水道施設の構築を目指しています。

松尾配水場は令和2年度に更新工事が完成し、東金配水場は令和6年度の完成に向け工事を進めています。

松尾配水場（令和 2 年度）

東金配水場（令和 6 年度）

■非常用自家発電設備

配水場からお客様への配水方式は、約 9 割が電力を必要としない自然流下方式ですが、残りの約 1 割は電力を必要とするポンプ圧送方式で高台地区へ配水しています。

そのため、災害等による長時間の停電に耐えられるよう各配水場には非常用自家発電設備（写真参考：P22）が備えられており、72 時間（3 日間）の稼働が可能となっています。

また、災害時に対策本部となる事務局庁舎にも同様に非常用自家発電設備が備えられています。

事務局庁舎 非常用自家発電設備（令和 5 年度）

■管路の耐震化

基幹管路耐震化事業

基幹管路とは、水道水を供給する上で最も重要な管路で、被害を受けると給水に甚大な影響を及ぼすことから、優先的に耐震化を進めることとしています。

創設から40年を経過している口径350mm以上の配水管42.5㎞を平成28年度から令和27年度までの30年間で耐震管に更新する計画としています。令和5年度末までに16.8kmの管路の耐震化を実施し、計画策定前に耐震化されていた管路や耐震適合性のある管を含めた耐震適合管率は98.4％で、これは全国平均の42.3％（令和4年度末）よりも高い数値となっています。

重要給水施設配水管耐震化事業

重要給水施設配水管とは、災害が発生した際に避難所となる公共施設や主要病院等の重要施設への配水管です。避難所や主要病院が断水となるとお客様に与える影響が大きいことから基幹管路と同様に優先的に耐震化を進めています。

給水区域内151箇所（令和5年度末）の重要給水施設への配水管162.1kmについて、平成27年度から令和31年度までの35年間で耐震管に更新する計画としており、令和5年度末までに23箇所12.5kmの管路の耐震化を行い、計画策定前に耐震化されていた管路を含めて30.6％が耐震化されています。

■水道資器材備蓄倉庫

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災において兵庫県が受けたライフラインの壊滅的な被害を教訓に、東金配水場内に水道資器材備蓄倉庫を建設し、災害時の応急復旧用水道資器材及び応急給水用器材の備蓄を行い、緊急の事態に備えています。

■給水車・応急給水タンク・応急給水袋

現在、企業団では給水車2台、組立式の応急給水タンク5台及び応急給水袋を約6,000枚保有しており、大規模災害だけではなく漏水等による断水時にも利用できるよう準備をしています。

給水車2台のうち1台は、平成5年から令和2年までの27年間、阪神・淡路大震災や東日本大震災、令和元年房総半島台風等で活躍してきましたが、老朽化により令和3年度に更新しました。

給水車（令和３年度更新）

組立式応急給水タンクは、通常時は水道資器材備蓄倉庫に畳んで保管しており、災害時は組み立てて使用します。広範囲で断水になった際には、複数の給水所に設置することができ、より多くのお客様へ効率的に給水できます。

応急給水袋は容量6Ｌで付属の紐を活用するとリュックのように背負うことができ、持ち運ぶのに便利な仕様になっています。また、使用後にすすぎ洗いをすることで衛生的に繰り返し使用することができます。

組立式応急給水タンク

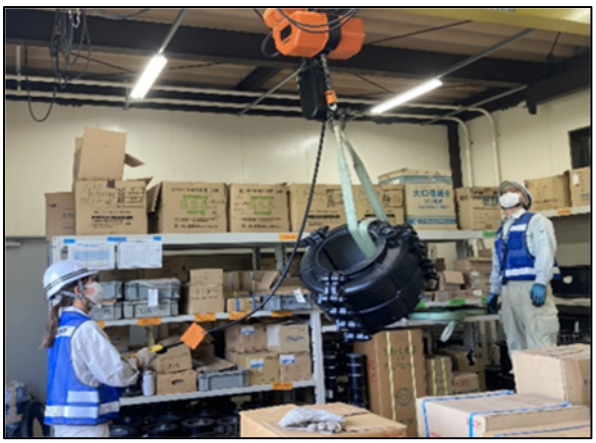
応急給水袋

■各種訓練

災害時の初期活動を迅速に行うため、災害対策実施計画及び災害対策活動マニュアルを整備し、情報伝達、職員参集、非常用電源確保、無線通信、資器材搬出及び応急給水等の訓練を毎年実施するとともに、構成市町の総合防災訓練にも参加し応急給水訓練等を住民の皆様と行っています。

また、関係団体及び民間事業者と災害時における復旧体制の連携強化を図っています。

非常用電源確保訓練



資器材搬出訓練

応急給水訓練

大網白里市での総合防災訓練

第２章　水源・施設の概要

第１節　九十九里地域の水道用水供給

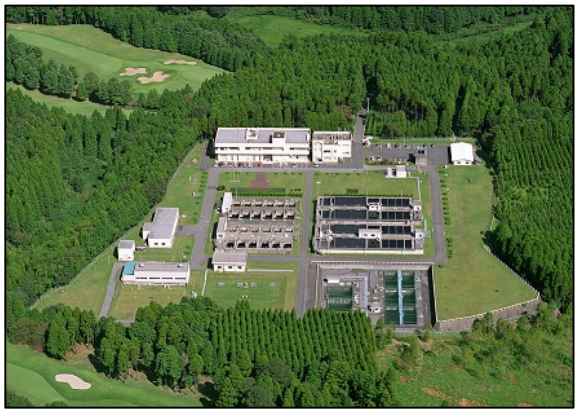
九十九里地域は地勢上、量や質的にも水道水に適した水源がなく、首都圏の多くの水道事業と同様に利根川水系に水源※を求めています。水源である利根川上流ダム群から利根川を経由して流れてきた水を千葉県香取市にある利根川両総水門より取水し、栗山川（両総用水共用区間）、房総導水路を経て、九十九里地域水道企業団の東金・光浄水場で浄水しています。

企業団では、水道用水供給事業者である九十九里地域水道企業団で浄水された水を全量受水し、東金・大網・松尾配水場で一旦蓄えお客様に給水しています。

東金浄水場

房総導水路で送られてきた水を東金取水場で取水し、取水ポンプで東金浄水場へ送ります。

東金浄水場で浄水処理した水は、当企業団の東金・大網配水場へ給水されます。



（提供：九十九里地域水道企業団）

光浄水場

光取水場で取水し、沈砂池で砂等を除去した後、取水ポンプで光浄水場に送ります。

光浄水場で浄水処理した水は、当企業団の松尾配水場へ給水されます。

（提供：九十九里地域水道企業団）

※　水資源機構の茨城県霞ケ浦開発及び群馬県奈良俣ダムからなる利根川の水

第２節　水道施設の概要

■配水場の現況

企業団の配水場は、東金・大網・松尾の3箇所で、各配水場では九十九里地域水道企業団から浄水された水を受水し、次亜塩素酸ナトリウムを追加注入してお客様へ給水しており、配水場より標高の高い地域（高区）には配水ポンプ設備により圧送、標高の低い地域（低区）には高低差を利用し自然流下で配水しています。配水系統は大きく分けると、九十九里地域水道企業団の東金浄水場から受水している大網配水場と東金配水場、光浄水場から受水している松尾配水場の2系統になっています。

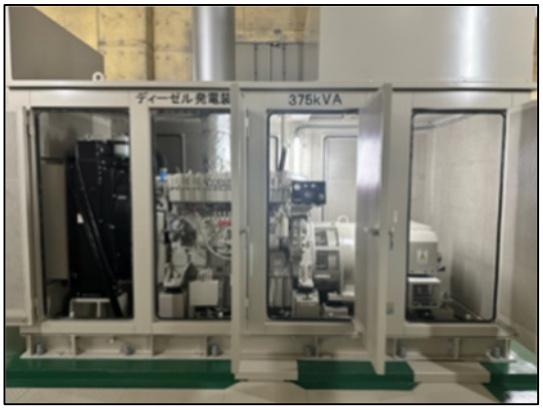
各配水場の建物はすべて耐震診断基準を満たしており、千葉県東方沖地震や東日本大震災の際にも被害はありませんでした。さらに、地震動レベル2に対応した配水池を各配水場に整備しながら、場内連絡管の耐震化も順次進めています。

配水場名	施設名	容量（㎥）	建設年度	構造	貯留時間(h)
東金	1号配水池	2,800	S51	RC半地下式	14.1
	2号配水池	2,800	S59	RC半地下式	
	3号配水池	2,800	H5	RC半地下式	
	4号配水池	8,000	H10	PC地上式	
	計	16,400			
大網	1号配水池	2,050	S51	RC地下式	16.8
	2号配水池	2,050	H元	RC地下式	
	3号配水池	2,000	H4	RC地下式	
	4号配水池	2,000	H4	RC地下式	
	5号配水池	5,000	H14	RC地下式	
	計	13,100			
松尾	1号配水池	1,600	S51	RC地上式	11.6
	2号配水池	1,600	S51	RC地上式	
	3号配水池	1,600	R元	SUS地上式	
	計	4,800			
合計		34,300			

■各配水場の非常用自家発電設備

　各配水場はラジエーター冷却方式の非常用自家発電設備を備えているため、72時間（3日間）の長時間停電にも対応できる災害に強い水道施設となっています。

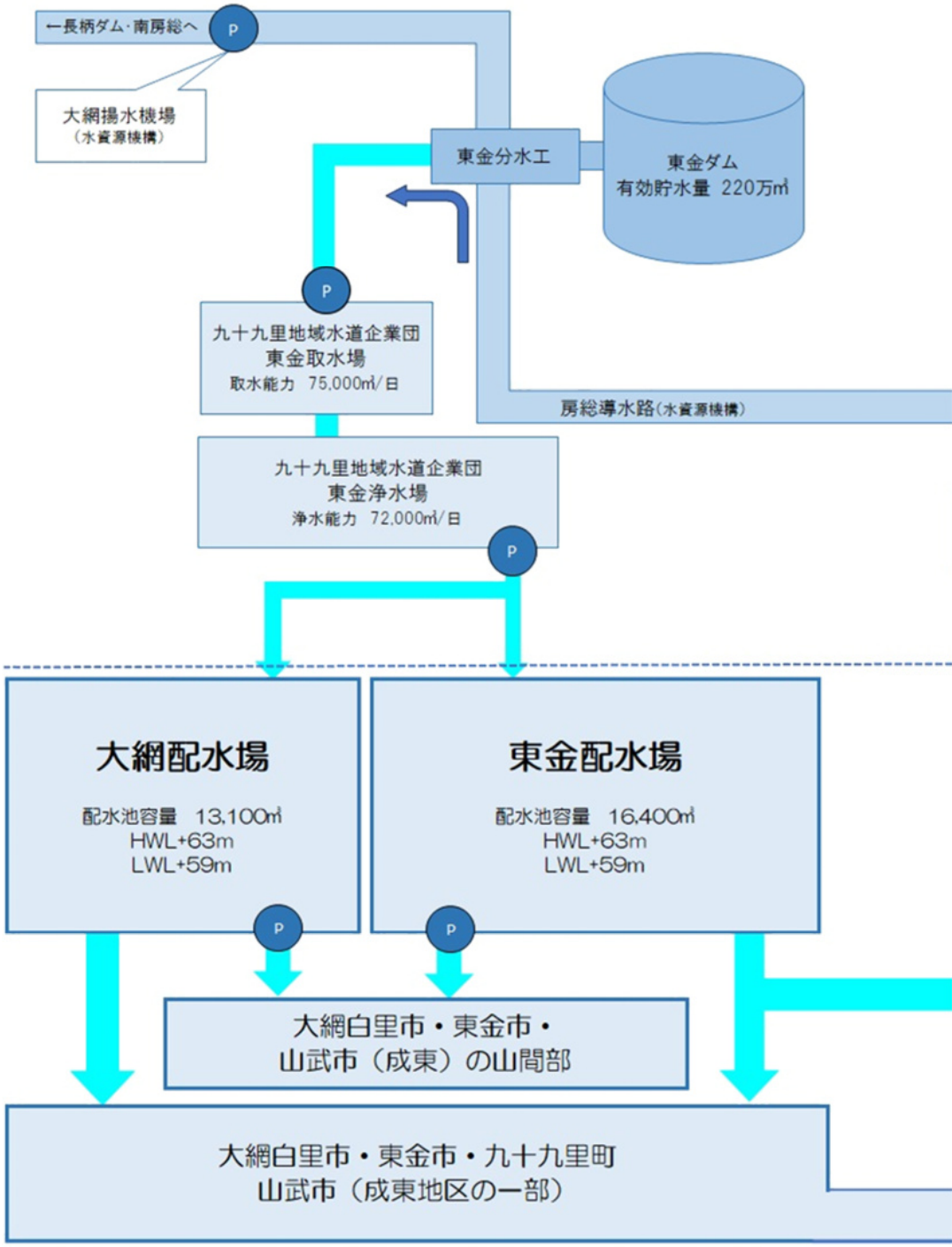
東金配水場（令和 3 年度更新）



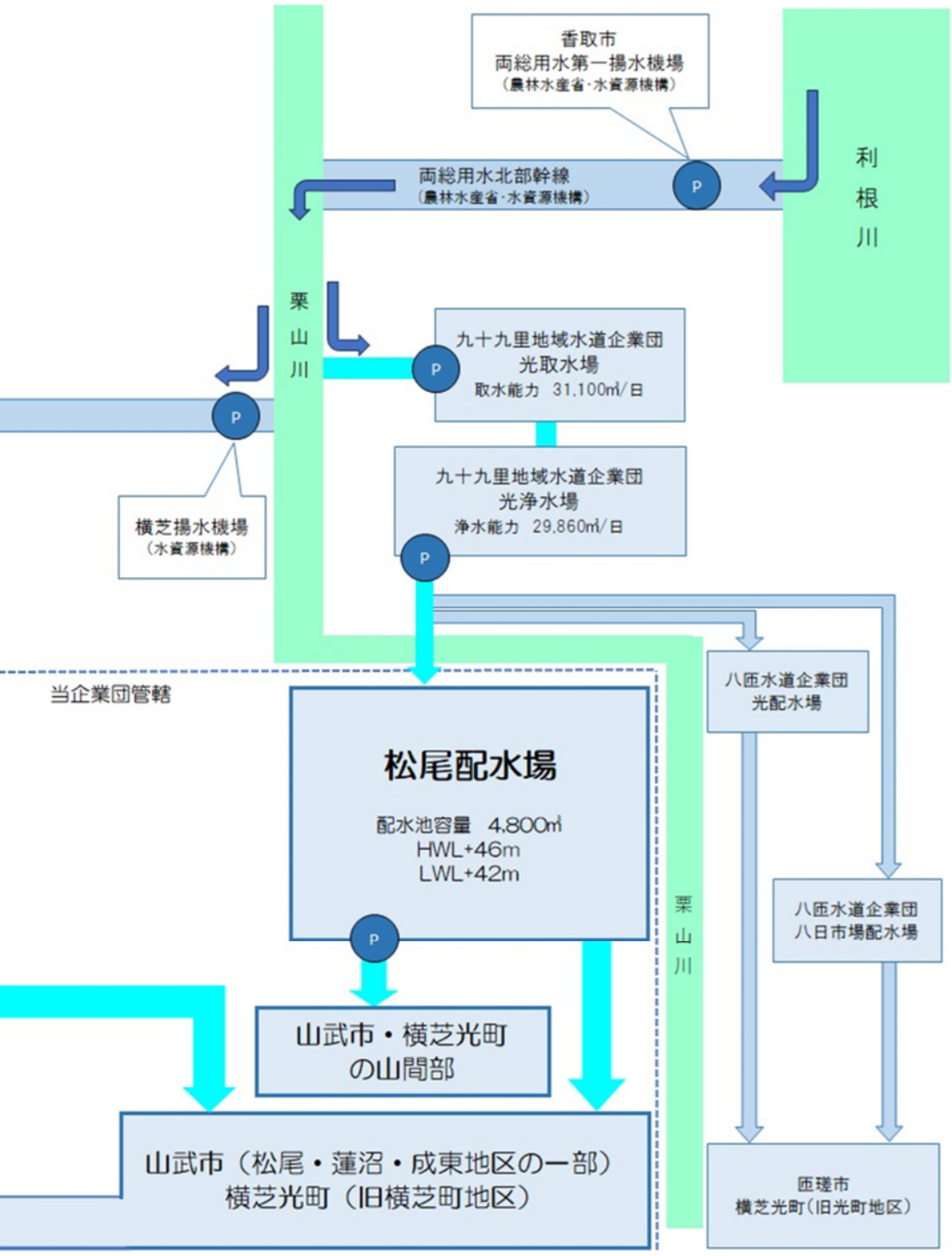
大網配水場（令和 3 年度更新）

松尾配水場（令和 4 年度更新）

配水系統図



※HWL：配水池の最高水位の地盤高
　LWL：配水池の最低水位の地盤高


香取市
両総用水第一揚水機場
（農林水産省・水資源機構）
利根川
両総用水北部幹線
（農林水産省・水資源機構）
P
栗山川
九十九里地域水道企業団
光取水場
取水能力　31,100㎥/日
横芝揚水機場
（水資源機構）
九十九里地域水道企業団
光浄水場
浄水能力　29,860㎥/日
当企業団管轄
八匝水道企業団
光配水場
松尾配水場
配水池容量　4,800㎥
HWL+46m
LWL+42m
八匝水道企業団
八日市場配水場
山武市・横芝光町
の山間部
山武市（松尾・蓮沼・成東地区の一部）
横芝光町（旧横芝町地区）
匝瑳市
横芝光町（旧光町地区）

1　東金配水場（東金市大豆谷）

東金配水場

住　　所：東金市大豆谷 787 番地 1

用地面積：24,711 ㎡

配水方式：自然流下式・ポンプ加圧式

配水池：1 号池／2,800 ㎥　昭和 51 年度築造　令和 6 年度改修予定

2 号池／2,800 ㎥　昭和 59 年度築造　令和 5 年度改修中

3 号池／2,800 ㎥　平成　5 年度築造　令和 5 年度改修中

4 号池／8,000 ㎥　平成 10 年度築造　令和 4 年度改修

※令和 4～6 年度において、配水池の大規模改修と場内配管の耐震化、バルブの更新等の工事を行っています。

配水池容量：16,400 ㎥

1 号配水池
4 号配水池

東金配水場

東金配水場は、東金・九十九里・成東地区の約85,000人のお客様へ1日約26,000㎥の水道水を配水しています。

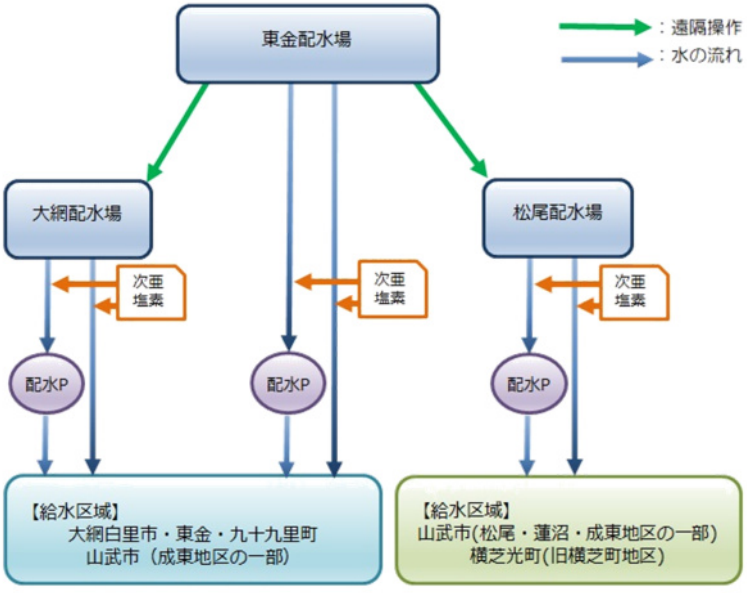
当配水場では、監視システムにより東金・大網・松尾配水場を常時監視しています。

監視システムは各配水場の配水量、水質及び設備等の状況について正確に把握することができるとともに、非常用自家発電設備、配水ポンプ及び次亜塩素酸ナトリウム注入設備を遠隔で操作できるため、緊急時においても迅速に対応することができます。

また、定期的に保守点検を行い、常に万全の状態で稼働することができるようにしています。

東金配水場監視室

遠隔操作と水の流れ



配水ポンプ

配水ポンプ（37ｋW）：3台（内1台予備）
吐出量：3.70㎥/分
口　径：150ｍｍ　　全揚程：35ｍ
1号：令和4年度更新
2号：令和4年度更新
3号：令和4年度更新

次亜塩素酸ナトリウム注入設備

消毒用の次亜塩素酸ナトリウムを注入するための設備

平成25年度更新

非常用自家発電設備

改　　修：平成24年度
　　令和 3年度
発電機容量：375ｋＶＡ／200Ｖ
　　（ディーゼルエンジン式）
燃　料　油：A重油
タンク容量：8,990L
運 転 時 間：72時間

2　大網配水場（大網白里市小西）

大網配水場

住　　所：大網白里市小西 925 番地 2
用地面積：15,066 ㎡
配水方式：自然流下式・ポンプ加圧式
配水池：1 号池／2,050 ㎥　昭和 51 年度築造
　　2 号池／2,050 ㎥　平成元年度築造
　　3 号池／2,000 ㎥　平成　4 年度築造
　　4 号池／2,000 ㎥　平成　4 年度築造
　　5 号池／5,000 ㎥　平成 14 年度築造
配水池容量：13,100 ㎥

大網配水場

大網配水場は、大網・東金（一部）地区の約47,000人のお客様へ1日約15,000㎥の水道水を配水しています。

当配水場は、標高の高いところにあるため、全ての配水池が地下にあります。配水池を地下にすることで、東金配水場との高低差をなくし、水道管内での逆流を防いでいます。

また、創設当初は自然流下方式のみで給水していましたが、宅地開発地域（季美の森地区等）への水道供給を担うため加圧ポンプを設置し、標高の高い場所へ給水することが可能になりました。

以前はガスタービン式の発電機を設置していましたが、老朽化した機械の更新に合わせて設備のダウンサイジングを計画し、ディーゼルエンジン式の発電機に更新しました。これにより燃料効率が上昇し、連続運転時間が72時間（3日間）となり、長時間の停電にも対応できる施設となりました。

非常用自家発電設備の更新
（令和3年度）

配水ポンプ

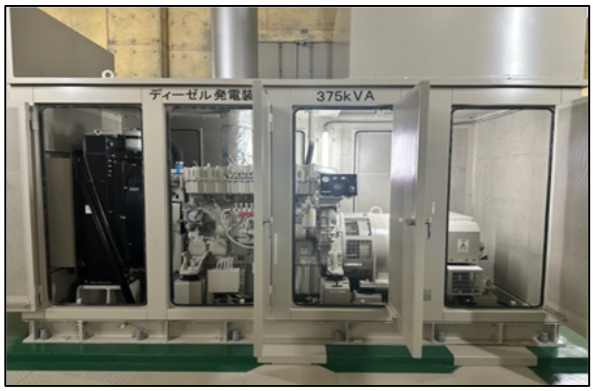
平成5年3月（新設）令和3年3月（改修）
配水ポンプ（45ｋW）：3台（内1台予備）
吐出量：2.78㎥/分（1号）
　　3.90㎥/分（2・3号）
口　径：150ｍｍ　　全揚程：55ｍ（1号）
　　56m（2・3号）
1号：平成26年度更新
2号：令和 3年度改修
3号：令和 3年度改修

次亜塩素酸ナトリウム注入設備

消毒用の次亜塩素酸ナトリウムを注入するための設備

平成30年度改修

非常用自家発電設備



入　　替：令和3年5月
発電機容量：375ｋＶＡ／400Ｖ
　　（ディーゼルエンジン式）
燃　料　油：A重油
タンク容量：10,980L
運 転 時 間：72時間

3　松尾配水場（山武市松尾町蕪木）

松尾配水場

住　　所：山武市松尾町蕪木 831 番地 1
用地面積：6,045 ㎡
配水方式：自然流下式・ポンプ加圧式
配水池：1 号池／1,600 ㎥　昭和 51 年度築造　令和 2 年度改修
　　2 号池／1,600 ㎥　昭和 51 年度築造　令和 2 年度改修
　　3 号池／1,600 ㎥　令和元年度築造
配水池容量：4,800 ㎥

１号配水池
管理棟

松尾配水場

松尾配水場は、松尾・蓮沼・横芝地区の約17,000人のお客様へ1日約7,100㎥の水道水を配水しています。

当配水場は、災害時においても安定した給水を確保するため、地震動レベル2の耐震性能を有する3号配水池を築造し、令和元年10月に運用を開始しました。

なお、松尾配水場3号配水池及び横6号幹線を整備することにより、効率的な水運用が図られることとなったため、令和4年3月に成東配水場を廃止しました。

松尾配水場 3 号配水池（令和元年 10 月築造）

成東配水場（令和 4 年 3 月廃止）

配水ポンプ

平成3年3月（新設）平成27年3月（改修）
配水ポンプ（18.5ｋW）：4台（内1台予備）
吐出量：1.3㎥/分
口　径：125ｍｍ　　全揚程：47ｍ
1号：平成25年度改修
2号：平成26年度改修
3号：平成27年度改修
4号：平成27年度改修

次亜塩素酸ナトリウム注入設備

消毒用の次亜塩素酸ナトリウムを注入するための設備

平成29年度更新

非常用自家発電設備

改　　修：令和4年度
発電機容量：180ｋＶＡ／200Ｖ
（ディーゼルエンジン式）
燃　料　油：A重油
タンク容量：3,930L
運 転 時 間：72時間

第３節　配水管の概要

企業団の給水区域内には総延長約 1,440km の配水管が布設されており、創設時に布設された配水管の多くは法定耐用年数（40 年）を経過し更新時期を迎えております。

創設時に布設した配水管の多くは耐震性を有していない硬質塩化ビニル管が使用されているため、今後想定される大規模地震への対策として平成 24 年度に「重要給水施設配水管耐震化計画」を策定し、重要給水施設までの管路を耐震化すべく改良工事を実施しております。

また、平成 25 年度には「基幹管路耐震化計画」を策定し、基幹管路を耐震化すべく同様に工事を実施した結果、基幹管路の耐震適合管率は 98.4％となりました。

今後も給水人口の減少により給水量が減少傾向にあることから、配水管のダウンサイジングを実施するとともに、耐震性を有したダクタイル鋳鉄管、配水用ポリエチレン管等への布設替えを行い、耐震化に努め、定期的な漏水調査及び排水施設等の点検、水管橋の腐食調査等を実施し、漏水の早期発見・修理を行ってまいります。さらに、老朽化により漏水の恐れがあり更新が困難な配水管については、クリーニングした老朽管に気密性・水密性が優れているシールホースを反転挿入することで配水管内を補強・更生するホースライニング更生工事を実施し効率的な水運用を図ってまいります。

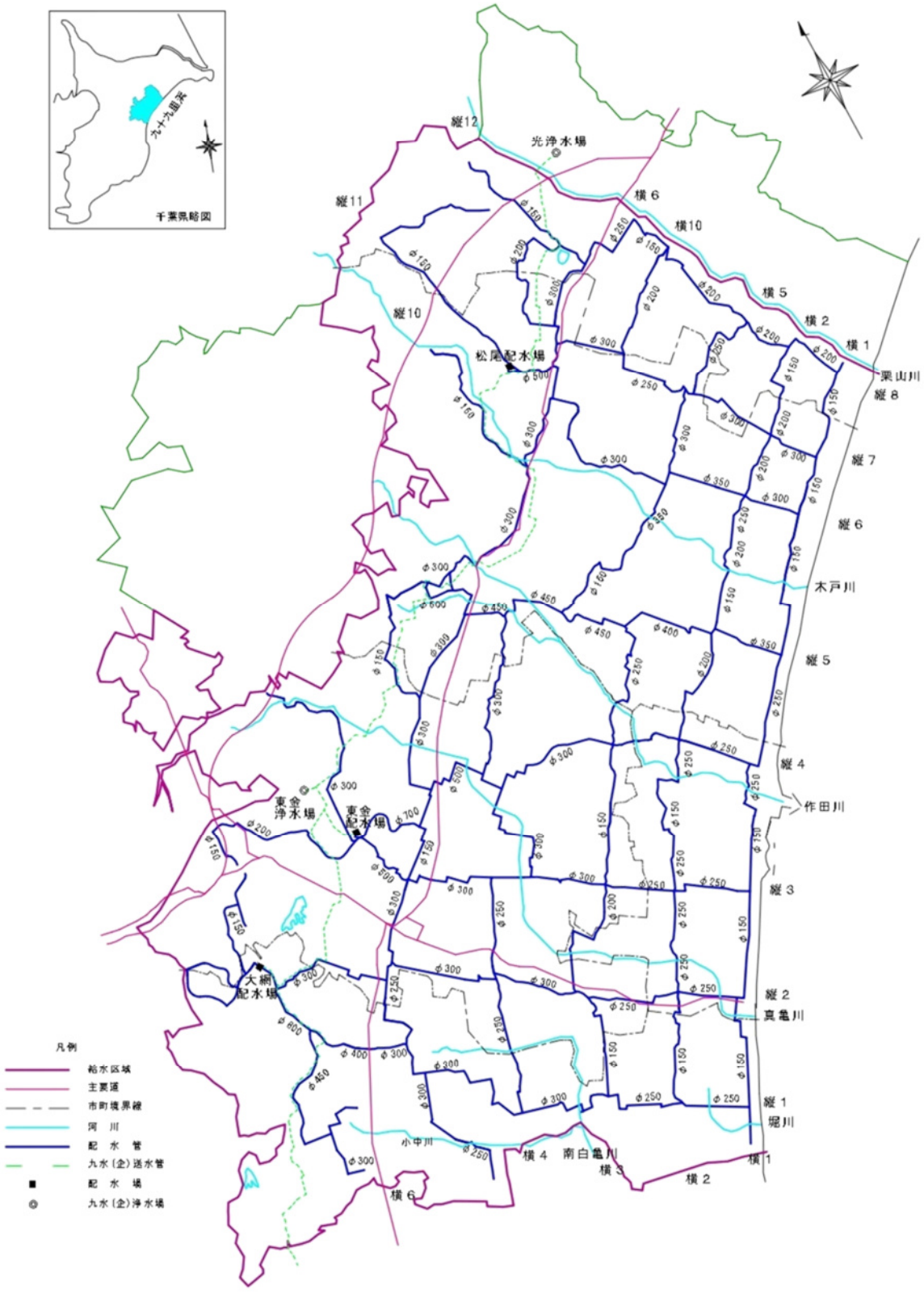
管種別配水管布設状況（令和 6 年 3 月末）

管　　種	延　　長（m）
ダクタイル鋳鉄管	372,433.5
鋼管（SP・SUS）	47,849.8
硬質塩化ビニル管	905,149.3
ポリエチレン管	117,659.8
合　　計	1,443,092.4

漏水調査（音聴検査）

配水用ポリエチレン管

山武郡市広域水道企業団管網図



第３章　経営方針

第１節　水道事業ビジョン・経営戦略（中長期経営プラン）

１　概　　要

企業団では、平成16年6月に厚生労働省が提唱する水道事業の未来像や目標を示す「水道ビジョン」に基づき、平成22年12月に「地域水道ビジョン2010」を策定するとともに、平成21年7月に総務省が示す「経営計画」を、平成23年12月に「中期経営計画」として策定しました。

その後平成25年3月に、厚生労働省は人口減少や東日本大震災を契機とした危機管理への対応、老朽化施設の更新など水道を取り巻く環境が大きく変化していることを受け、50年、100年後の将来を見据えた「新水道ビジョン」を公表し、各水道事業体はこれらの課題に対応するため計画的に取り組むこととなりました。また、総務省からも平成26年8月に中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むよう求められました。

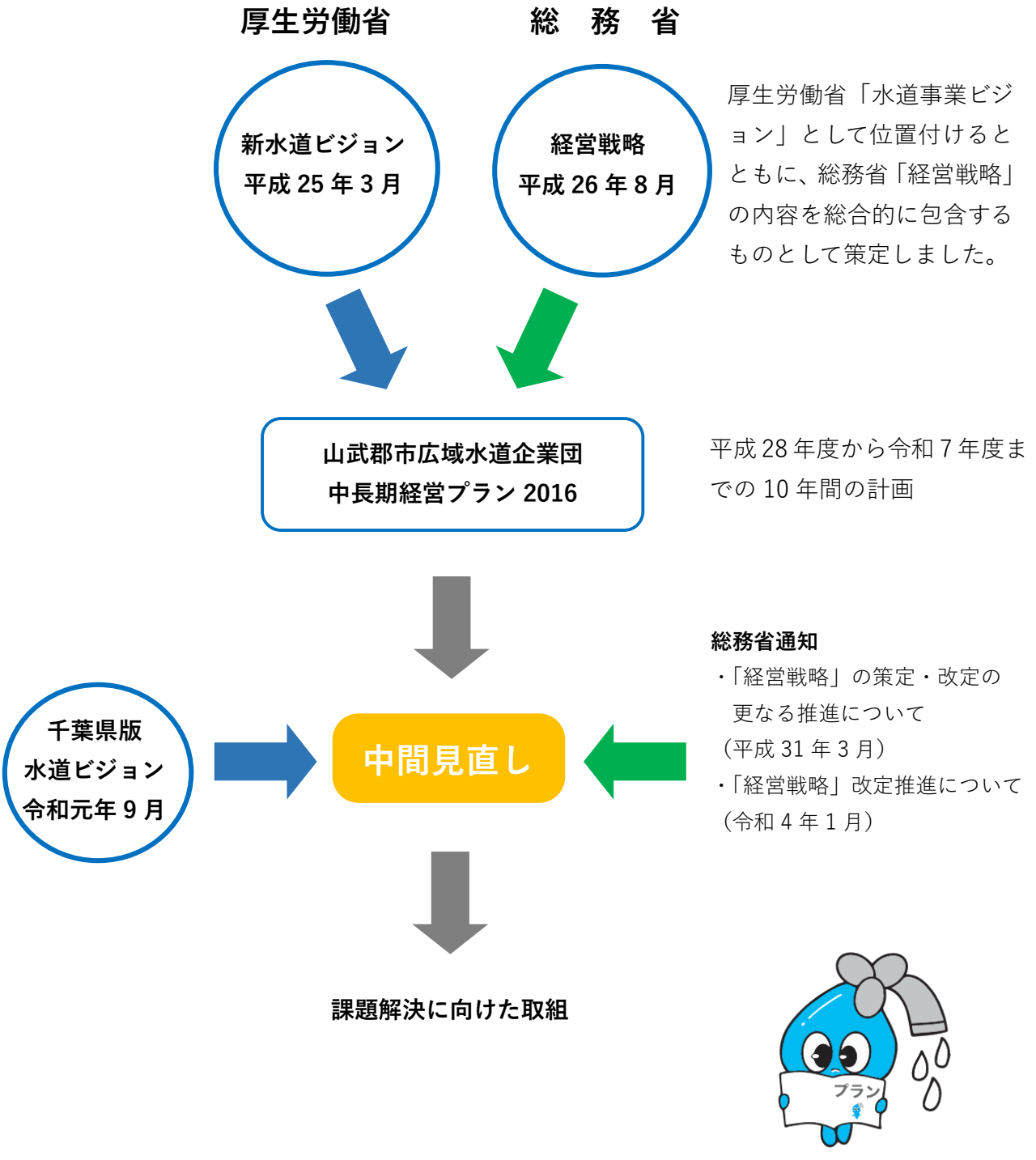
これらを受け、企業団では、来るべき時代に求められる課題、理想像や目指すべき方向性等を整理し、環境の変化に適切に対応するため、企業団の水道事業全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画（厚生労働省の「水道事業ビジョン」と総務省の「経営戦略」を総合的に包含する計画）として、平成２８年３月に「山武郡市広域水道企業団中長期経営プラン2016」を策定し、基本理念として掲げた「次世代へつなぐ強靭で安心な水道」の実現を目指すこととしました。

中長期経営プランは、計画で設定した目標の達成と事業の計画的な実施のため、PDCAマネジメントサイクル（PLAN：計画、DO：実行、CHECK：評価、ACTION：改善）により各取組について達成状況の確認・評価・改善を行うとともに3～4年に一度の中間見直しを行いながら進行管理を行っています。

進行管理については、「中長期経営プラン2016推進委員会」を設置し、各取組の内部評価を実施しています。この内部評価の客観性を確保するため「山武郡市広域水道企業団水道事業運営委員会（受益者及び知識経験を有する者で構成）」で審議し、評価結果を取りまとめて公表しています。

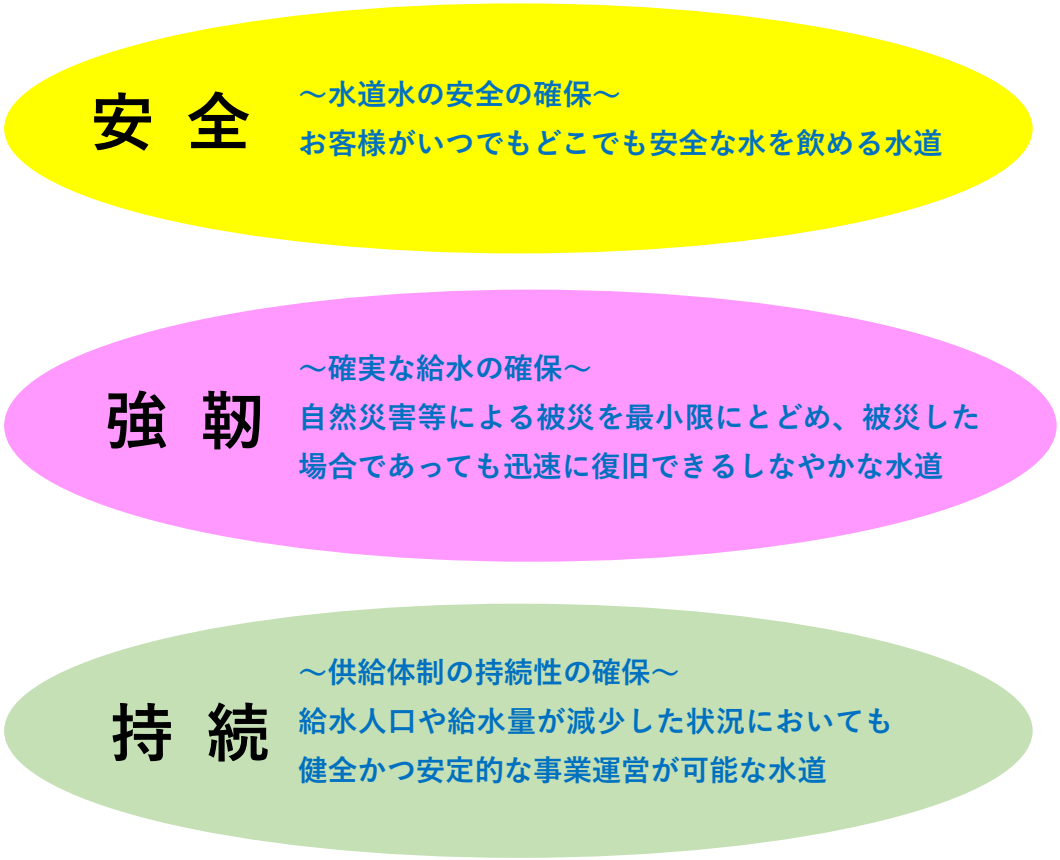
今後も、必要な改善を行い中長期経営プランの着実な推進に取り組んでまいります。

計画の位置付け


厚生労働省
総　務　省
新水道ビジョン
平成 25 年 3 月
経営戦略
平成 26 年 8 月
厚生労働省「水道事業ビジョン」として位置付けるとともに、総務省「経営戦略」の内容を総合的に包含するものとして策定しました。
山武郡市広域水道企業団
中長期経営プラン 2016
平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間の計画
千葉県版
水道ビジョン
令和元年 9 月
中間見直し
総務省通知
・「経営戦略」の策定・改定の更なる推進について（平成 31 年 3 月）
・「経営戦略」改定推進について（令和 4 年 1 月）
課題解決に向けた取組
プラン

２　中長期経営プランの計画目標

中長期経営プランでは、基本理念を「次世代へつなぐ強靭で安心な水道」と掲げ、「安心」して飲める「安全」な水道を災害や事故に強い水道施設によって「安定」してお届けしていくことを使命ととらえ、さまざまな課題に対応していくため、事業の方向性として、「安全」「強靭」「持続」という３つの計画目標を設定し取り組んでいます。

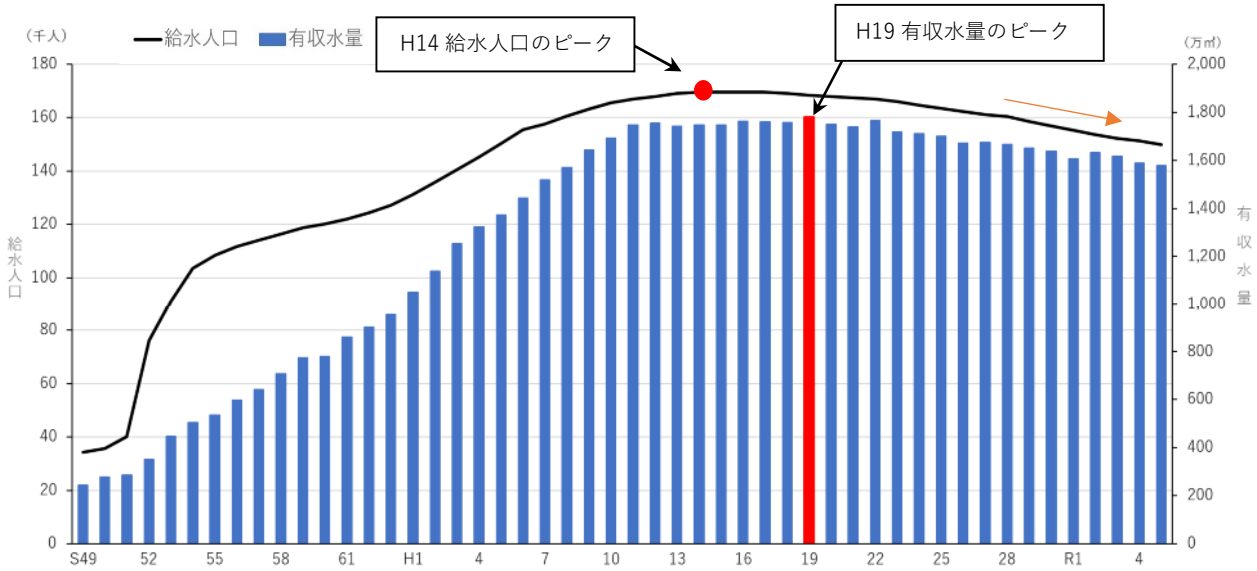


第２節　経営状況

1　給水人口・有収水量の推移

給水人口は、創設期から増加傾向で推移してきましたが、平成14年度の169,508人をピークに減少に転じており、令和5年度は149,775人（12％減）まで減少しています。

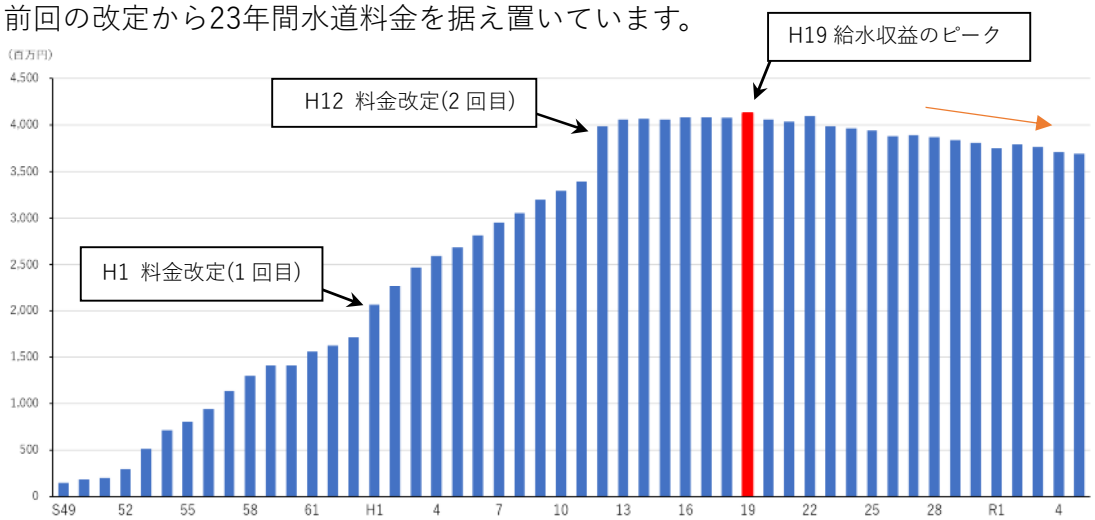
有収水量も給水人口の変動に左右され、平成19年度の17,782,725㎥をピークに減少に転じており、令和5年度は15,771,407㎥（11％減）まで減少しています。



2　給水収益の推移

水道事業の運営・管理に必要となる収入のうち約8割を占めている給水収益は、給水人口の増加により、平成19年度には41億2千8百万円まで増加しましたが、その後、給水人口の減少に伴い、令和5年度には36億9千万円（11％減）まで減少しています。

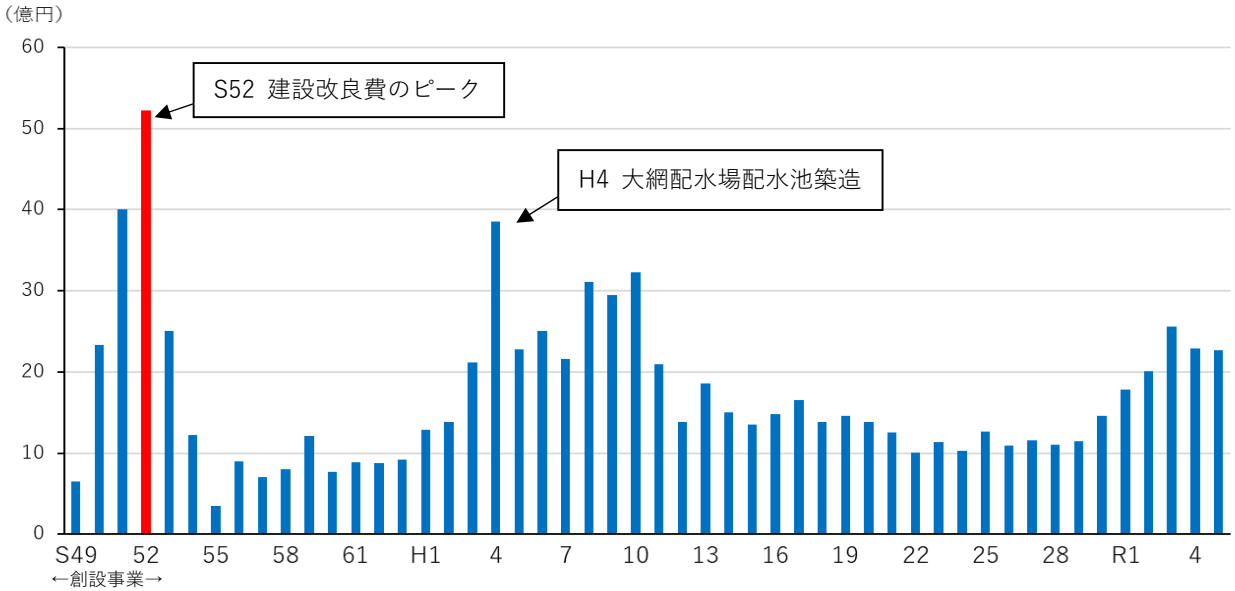
水道料金の改定については、昭和57年7月に既設水道の料金を一元化してから平成元年4月（改定率6％）、平成12年4月（改定率19％）と2回行ってきました。どちらも、用水供給事業体である九十九里地域水道企業団の用水供給料金の改定に併せて行ったものですが、前回の改定から23年間水道料金を据え置いています。



３　建設改良費の推移

水道施設の建設、整備及び改良に係る費用である建設改良費は、創設事業を実施していた昭和52年度に52億1千万円となりピークを迎えました。その後、東金・大網地域の水需要の拡大により、平成4年度には大網配水場の配水池築造工事を含む39億円の事業を実施するなど、配水池の築造や配水管の改良工事を順次行ってきました。

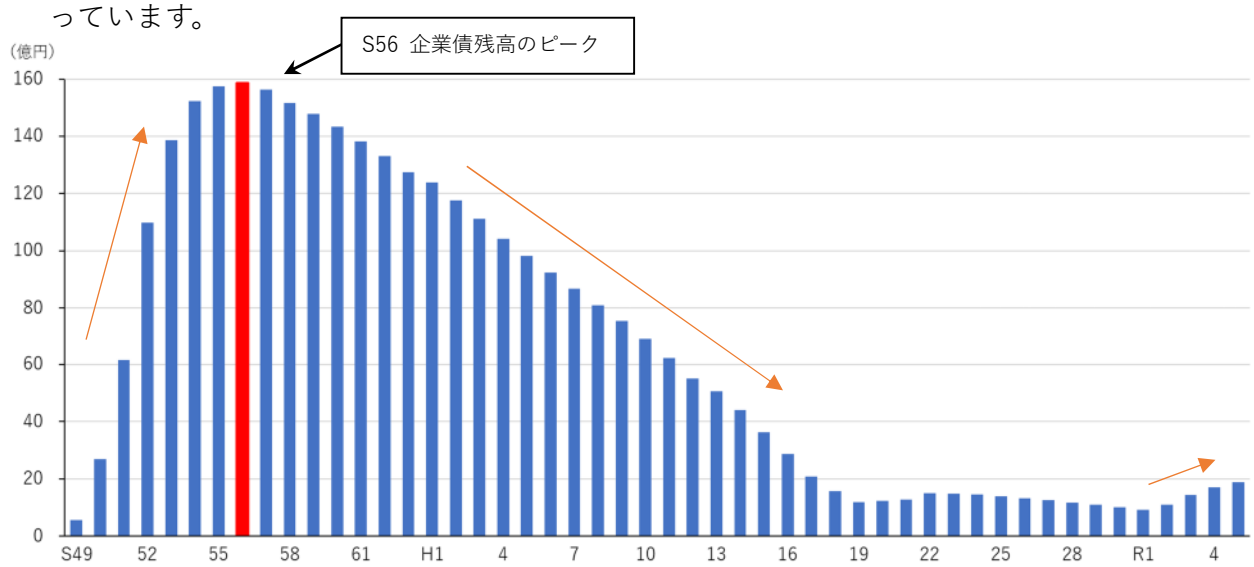
また、平成28年度からは配水場や配水管の老朽化及び耐震化対策の費用の平準化を図りながら計画的に行っていますが、近年の物価高騰等で工事費は増加傾向になっています。



４　企業債残高の推移

創設事業の財源として借入れた企業債は、昭和56年度には159億円まで増加しましたが、その後、事業の進捗に合わせ借入抑制や繰上償還などにより12億円まで減少しました。

また、令和2年度からは新たに基幹管路及び重要給水施設配水管耐震化事業の財源を確保するため、借入を行っていることから再び増加傾向となり、令和5年度末残高は19億円となっています。

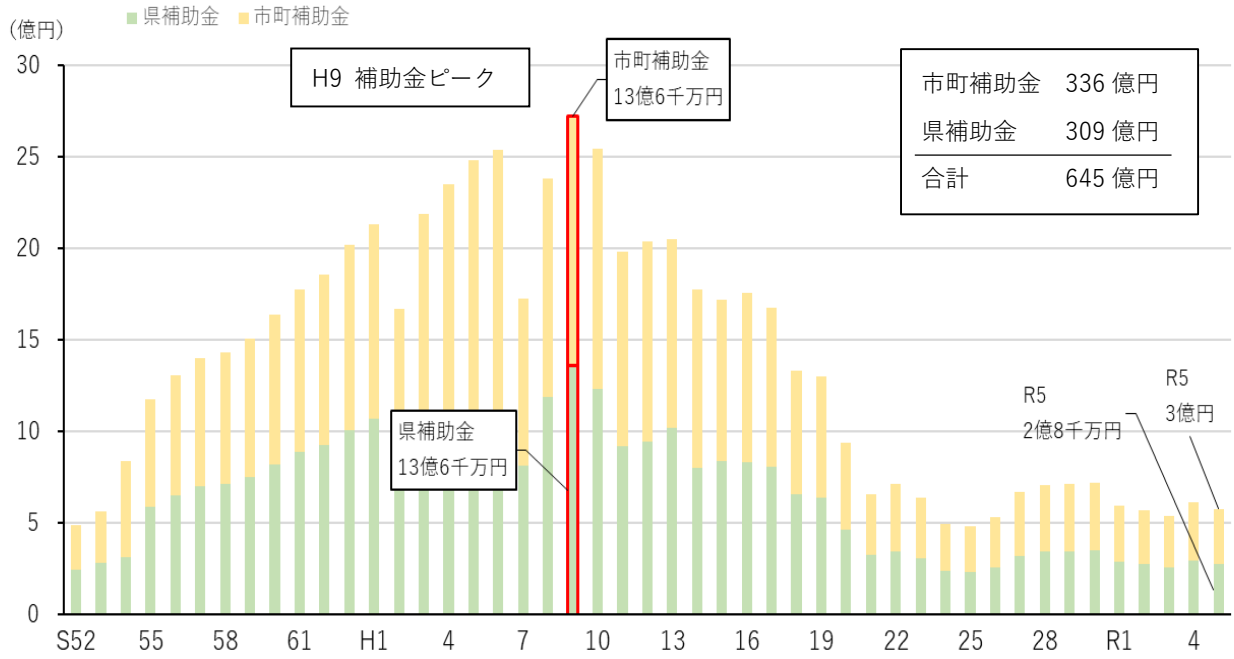


5　市町補助金及び県補助金の推移

九十九里地域の水道は、遠く離れた利根川の水を原水としているため、その浄水に係る施設の建設費用や維持管理に多額の経費が掛かっていることから、九十九里地域水道企業団から購入する浄水の費用（受水費）は、他地域に比べ高額であり、水道料金を押し上げる大きな要因となっています。

そこで、九十九里地域の各市町村は、住民の水道料金の負担が大きくなっていることを憂慮して、千葉県に対して引き下げ策を講じるよう要望を重ねてきました。その結果、当企業団では、水道の高料金対策として『市町村水道総合対策事業補助金』を受けることができています。

昭和52年度から令和5年度までの46年間で、構成市町及び千葉県から約645億円の補助金を繰り出して頂き水道料金の上昇を抑制しています。



6　今後の経営

創設以来、お客様の生活環境や地域の社会経済活動を支える重要なライフラインとしての役割を果たしてきましたが、今後は、これまで整備してきた各施設の維持管理や災害に備えた耐震化などの取り組みを強化するとともに、多様化するお客様ニーズ等の対応が必要となります。

また、人口減少により水需要が減少し給水収益の増加が見込めない状況の中、物価高騰等の影響により益々厳しくなる経営環境を乗り越えるため、来るべき時に備えながら目指すべき方向性等をしっかり見定め、「安全」「強靭」「持続」の諸施策を着実に実施し、社会経済情勢の変化による水需要の動向を見据えた経営の健全化に取り組んでまいります。

第４章　構成市町

東金市 Togane City

［東金市の概要］

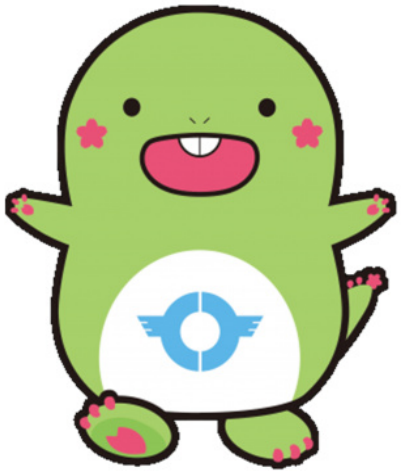
東金市は、東京都心まで約 50～60 ㎞、千葉県のほぼ中央部に位置しています。温暖な気候に恵まれ、平野部には田園地帯が、丘陵地は山武杉の森林が広がっています。徳川家康の鷹狩りのために「御成街道」が造られたことにより、宿場町と近隣農産物が集まる問屋町が形成されました。以降、東金は九十九里地域の物流の拠点、中核都市として発展してきました。

現在では、国道 126 号と千葉東金道路、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）をつなぐ交通の要衝となっています。

東金市街地

八鶴湖

令和6年3月31日現在	
給水区域内人口	56,838人
給水人口	55,987人
給水戸数	25,694戸
普及率	98.5%



東金市マスコットキャラクター

とっちー

提供：東金市

山武市

［山武市の概要］

山武市は、県都千葉市や成田国際空港まで約 10 から 30 キロメートル、都心へも約 50 から 70 キロメートルのところにあります。日本有数の砂浜海岸である九十九里浜のほぼ中央にあり、約 8 キロメートルにわたって太平洋に面し、総面積は 146.77 平方キロメートルです。

地勢は大別して九十九里海岸地帯と、その後背地として広大な沖積平野及び低位台地からなる丘陵地帯で構成され、海岸線にほぼ並行に帯状に展開しています。

稲作はもちろん野菜や果実の生産も盛んで、山武杉などの林産物、九十九里浜の海の幸と、自然の恵み豊かな地域であるとともに、観光リゾート地として海水浴やサーフィン、テニスなどのスポーツも楽しめ、魅力ある地域資源を有しています。

本須賀海岸

蓮沼ウォーターガーデン

令和6年3月31日現在	
給水区域内人口	31,470人
給水人口	25,674人
給水戸数	10,838戸
普及率	81.6%

山武市マスコットキャラクター

ＳＵＮムシくん

提供：山武市

大網白里市

［大網白里市の概要］

大網白里市は、東京都心から50～60km圏域の九十九里平野のほぼ中央に位置し西は緑豊かな丘陵部、中央は広大な田園部、東は白砂青松の海岸部という特色ある自然豊かな風土を有しています。

昭和29年に大網町・白里町・増穂村の２町１村の合併により誕生した大網白里町は、豊かな海や自然を背景に第１次産業を中心とするまちでしたが、郊外型ベットタウンとして宅地開発や交通アクセスの向上が進められ、住宅都市として人口を増やしてきました。平成25年１月１日には千葉県で37番目の市として、単独での市制施行を実現しており、未来に向けて、住みたい・住み続けたいまちづくりを進めています。

大網白里市街地

白里海岸

令和6年3月31日現在	
給水区域内人口	47,083人
給水人口	46,850人
給水戸数	20,116戸
普及率	99.5%

大網白里市マスコットキャラクター

マリン

提供：大網白里市

九十九里町

［九十九里町の概要］

九十九里町は、九十九里浜のほぼ中央に位置し、目の前には黒潮踊る雄大な太平洋を望み、気候も温暖であふれる太陽と豊かな自然に恵まれた町です。素朴な自然環境は、古くから多くの文豪や歌人に愛され、訪れた人を虜にしてしまう魅力があります。

近年は、レジャーの多様化を背景に海水浴客は減少傾向にありますが、通年型の観光施策として日本初となる砂浜を疾走するビーチサイクル大会やビーチサッカーなどの新たなビーチの活用に取り組んでいます。

また、本町は令和７年３月31日に町制施行70年を迎えます。これを契機として、次世代を見据えた小中学校の給食費の完全無償化や、こども園での体操・英語教室など、子育て支援策を強化しています。

観光オブジェ

ビーチライフ

令和6年3月31日現在	
給水区域内人口	13,436人
給水人口	12,390人
給水戸数	5,586戸
普及率	92.2%

九十九里町マスコットキャラクター
くくりん

提供：九十九里町

横芝光町

［横芝光町の概要］

横芝光町は、千葉県北東部に位置し、東京都心から約70㎞、千葉市から約40㎞、成田空港からは約20㎞の距離にあり、九十九里平野における最大の河川栗山川が、町の中央部を北から南に向けて流れています。公共交通は、ＪＲ総武本線横芝駅と高速バスの停留所があり、約1時間20分で東京駅までアクセスが可能です。

自動運転走行が可能なＥＶバスを導入・走行させるなど、町の将来像である「人・自然・文化が奏でる暮らし、夢広がる幸せ実感のまち横芝光」を目指し、一人一人が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めています。

国指定重要無形民俗文化財「鬼来迎」

梅まつり

令和6年3月31日現在	
給水区域内人口	11,697人
給水人口	8,874人
給水戸数	3,628戸
普及率	75.9%

横芝光町マスコットキャラクター

よこぴー

提供：横芝光町

資　料　編

□企業団の組織

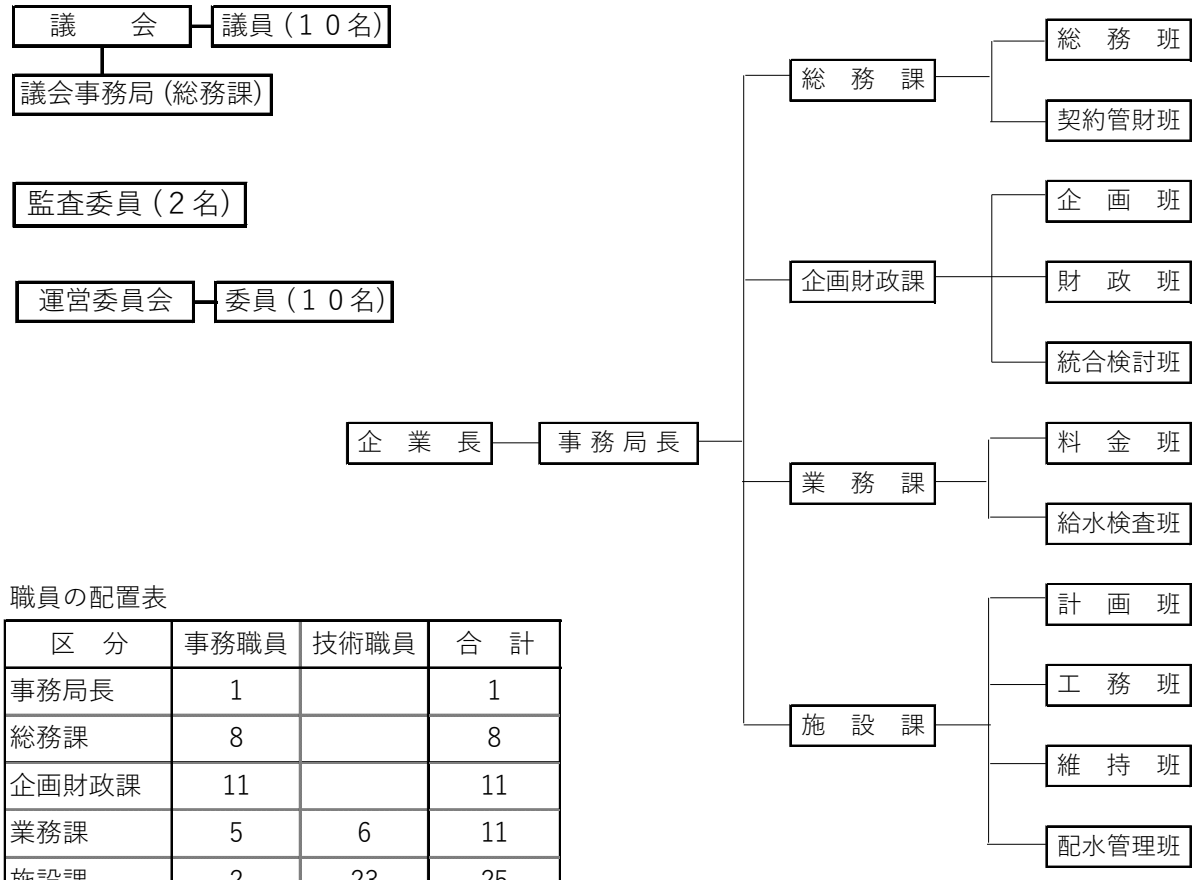
山武郡市広域水道企業団は、地方公共団体である一部事務組合です。

関係市町の長の互選により選任した企業長を執行機関とし、企業長が議会の同意を得て選任した監査委員を置いています。

また、執行機関のほか、関係市町の長及び関係市町の議員のうちから選挙された者を議員とする議会を設置しています。

企業長の権限に属する事務を処理するため下記のとおり 4 課 11 班を置くとともに、水道事業の円滑なる運営を図るため、運営委員会を設置しています。

R6.3.31 現在



職員の配置表

区　分	事務職員	技術職員	合　計
事務局長	1		1
総務課	8		8
企画財政課	11		11
業務課	5	6	11
施設課	2	23	25
合計	27	29	56

※再任用・臨時的任用職員を含む

□議会議員

令和 6 年 3 月 31 日現在

議席番号	氏　　名	市　町　名	現　職　名
1	鹿　間　陸　郎	東　金　市	東金市長
2	宮　山　　博	〃	東金市議会議員
3	金　坂　昌　典	大網白里市	大網白里市長
4	岡　田　憲　二	〃	大網白里市議会議員
5	佐　藤　晴　彦	横芝光町	横芝光町長
6	宮　薗　博　香	〃	横芝光町議会議員
7	細　田　一　男	九十九里町	九十九里町議会議員
8	浅　岡　　厚	〃	九十九里町長
9	小　川　善　郎	山　武　市	山武市議会議員
10	市　川　陽　子	〃	山武市議会議員

□監査委員

令和 6 年 3 月 31 日現在

	氏　　名
代表監査委員	鈴　木　純　夫
監査委員	小　川　善　郎

□運営委員

令和 6 年 3 月 31 日現在

委　員　区　分	氏　　名	市　　町
1 号委員 （構成する市町の長が 推せんした受益者）	中　村　美　恵	東　金　市
	大　木　豊　之	山　武　市
	今　井　智　子	大網白里市
	戸　村　俊　之	九十九里町
	若　梅　　操	横 芝 光 町
2 号委員 （知識経験を有する者）	植　松　憲　一	東　金　市
	中　里　文　男	山　武　市
	加　藤　計　廣	大網白里市
	中　川　チエリ	九十九里町
	齋　藤　　明	横 芝 光 町

□歴代企業長

歴代	企 業 長 名	在 任 期 間
初代	土屋　轍正 （大網白里町長が兼任）	昭和49年 4月 1日 ～ 昭和50年 1月16日
2～4	加藤岡　誠一 （大網白里町長が兼任）	昭和50年 2月 1日 ～ 昭和54年 1月16日 昭和54年 1月17日 ～ 昭和58年 1月16日 昭和58年 1月17日 ～ 昭和62年 1月16日
5	野口　洋一 （東金市長が兼任）	昭和62年 1月23日 ～ 昭和63年 8月31日
6～8	石橋　捷洋 （大網白里町長が兼任）	昭和63年 9月 1日 ～ 平成 3年 1月16日 平成 3年 1月17日 ～ 平成 7年 1月16日 平成 7年 1月24日 ～ 平成11年 1月16日
9～10	志賀　直温 （東金市長が兼任）	平成11年 2月 3日 ～ 平成14年 4月24日 平成14年 4月25日 ～ 平成18年 4月24日
11～12	堀内　慶三 （大網白里町長が兼任）	平成18年 5月15日 ～ 平成19年 1月16日 平成19年 1月17日 ～ 平成23年 1月16日
13～14	川島　伸也 （九十九里町長が兼任）	平成23年 2月15日 ～ 平成23年10月11日 平成23年10月14日 ～ 平成27年10月11日
15	金坂　昌典 （大網白里市長が兼任）	平成27年11月17日 ～ 平成31年 1月16日
16～17	松下　浩明 （山武市長が兼任）	平成31年 1月17日 ～ 令和 4年 4月22日 令和 4年 5月13日 ～

□歴代議長・副議長

歴代	議　長		副議長	
	氏　　名	期　　間	氏　　名	期　　間
初代	鈴 木　　繁	S49. 4 ～ S50. 4	鈴 木　　宏	S49. 4 ～ S50. 9
2	鈴 木　　繁	S50. 9 ～ S53. 8	山 辺　　進	S50.11 ～ S53. 2
3	鈴 木　　博	S53. 8 ～ S54. 8	鈴 木　　博	S53. 2 ～ S53. 8
4	小 川　守 一	S54. 8 ～ S58. 4	秋 葉　昌 良	S53. 8 ～ S54. 4
5	須和田　清 吉	S58. 9 ～ S58. 9	片 岡　正 直	S54. 8 ～ S54.11
6	鈴 木　　繁	S59. 2 ～ S62. 4	鈴木 源左エ門	S55. 2 ～ S56. 9
7	小 川　守 一	S62. 9 ～ H 1. 3	須和田　清 吉	S56.11 ～ S58. 9
8	平 山　敬 止	H 1. 8 ～ H 3. 4	松 林　　茂	S58. 9 ～ S60. 7
9	平 山　敬 止	H 3. 8 ～ H 7. 4	鈴 木　　仁	S60. 8 ～ S62. 7
10	高知尾　善 成	H 7. 8 ～ H 8.12	江 沢　　清	S62. 9 ～ S62.11
11	中 村　　捷	H 9. 3 ～ H11. 7	富 田　正 三	S63. 3 ～ H 1.12
12	中 村　　捷	H11. 8 ～ H13. 8	浅 岡　信 典	H 2. 2 ～ H 3. 9
13	古 川　髙 雄	H13. 8 ～ H14.12	浅 岡　信 典	H 4. 2 ～ H 4. 9
14	渡 辺　　豊	H15. 2 ～ H15. 4	山 本　政 弘	H 5. 3 ～ H 7. 9
15	北 田　雅 俊	H15. 8 ～ H15.11	市 原　利 一	H 8. 2 ～ H 8. 6
16	北 田　雅 俊	H16. 2 ～ H18.11	鈴 木　孝 雄	H 8. 8 ～ H 9. 3
17	石 﨑　公 一	H19. 2 ～ H19. 4	古 川　髙 雄	H 9. 8 ～ H11. 9
18	斉 藤　利 男	H19. 8 ～ H20. 4	古 川　髙 雄	H11.12 ～ H13. 8
19	石 橋　和 雄	H20. 8 ～ H23. 9	菅 井　直 秀	H13. 8 ～ H13.12
20	岡 田　憲 二	H24. 2 ～ H27.11	渡 辺　　豊	H14. 2 ～ H15. 2
21	小 川　善 郎	H28. 2 ～ H31. 4	斎 藤　悟 朗	H15. 2 ～ H15. 7
22	石 﨑　公 一	R 1. 8 ～ R 3. 3	八 角　健 一	H15. 8 ～ H16. 6
23	岡 田　憲 二	R 3. 8 ～ R 5.11	秋 葉　武 男	H16. 8 ～ H17. 6
24	岡 田　憲 二	R 6. 2 ～	浅 岡　信 典	H17. 8 ～ H18. 9
25			行 木　三 郎	H19. 2 ～ H19. 4
26			石 橋　和 雄	H19. 8 ～ H19. 9
27			石 橋　和 雄	H20. 2 ～ H20. 8
28			嘉 瀬　清 之	H20. 8 ～ H23. 4
29			行 木　三 郎	H23. 8 ～ H27. 4
30			小 川　善 郎	H27. 8 ～ H28. 2
31			佐久間　一 夫	H28. 2 ～ H29.10
32			石 﨑　公 一	H30. 2 ～ R 1. 8
33			岡 田　憲 二	R 1. 8 ～ R 1.11
34			岡 田　憲 二	R 2. 2 ～ R 3. 8
35			細 田　一 男	R 3. 8 ～ R 5. 9
36			細 田　一 男	R 6. 2 ～

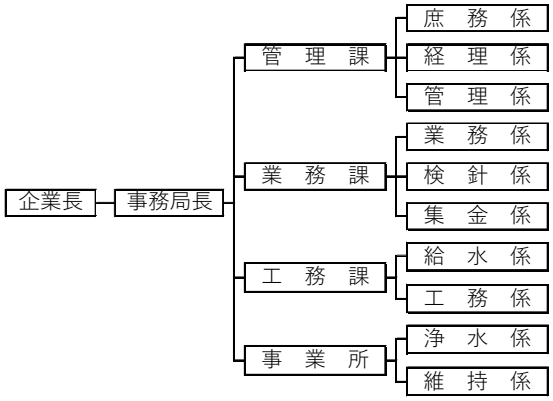
□歴代監査委員

氏　名	期　間
長谷川 常夫	S49. 4 ～ S52. 8
野島　実	S53. 2 ～ S57. 2
藤代 庄三郎	S57. 2 ～ S61. 2
	S61. 2 ～ H 2. 2
	H 2. 2 ～ H 6. 2
	H 6. 3 ～ H 8. 5
若林 博美	H 8. 8 ～ H12. 8
	H12. 9 ～ H16. 9
戸村 範雄	H16. 9 ～ H18. 3
野島 暉通	H18. 8 ～ H22. 8
	H22. 8 ～ H26. 8
	H26. 8 ～ H30. 8
	H30. 8 ～ R 3. 9
鈴木 純夫	R 4. 2 ～

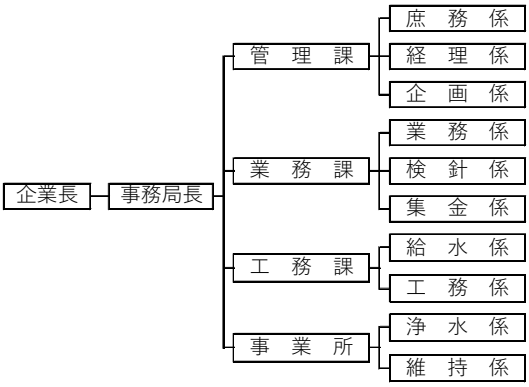
氏　名	期　間
外山 政雄	S49. 4 ～ S50.11
槌屋 義郎	S51. 9 ～ S52. 4
岡本　健	S52. 8 ～ S56. 8
土肥　実	S56. 8 ～ S60. 8
小倉　昂	S60. 8 ～ H 1. 8
武藤 源典	H 1. 8 ～ H 5. 8
	H 5. 8 ～ H 6. 7
鍬田 久明	H 6. 8 ～ H 9. 4
飯塚　光	H 9. 8 ～ H12.10
斎藤 守廣	H13. 8 ～ H14.12
江畑　豊	H15. 2 ～ H17. 3
今関 正美	H17. 8 ～ H18. 8
宮山　博	H18. 8 ～ H20. 1
山岸 恵一	H20. 2 ～ H21. 3
石渡 徹男	H21. 8 ～ H22. 5
小川 善郎	H22. 8 ～ H23. 4
早野　誠	H23. 8 ～ H24. 4
森川　忠	H24. 8 ～ H27. 4
	H27. 8 ～ H31. 4
能勢 秋吉	R 1. 8 ～ R 4. 4
小川 善郎	R 5. 8 ～

□企業団組織の変遷

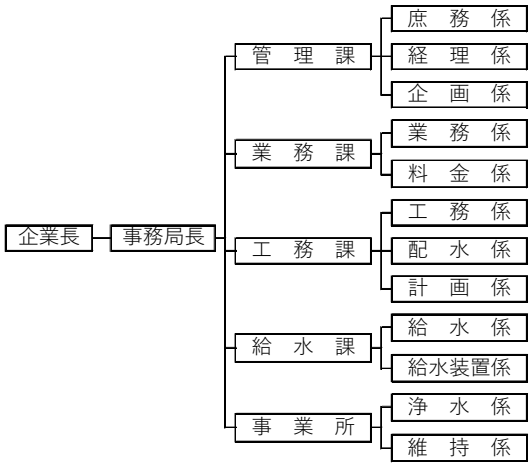
昭和49年度



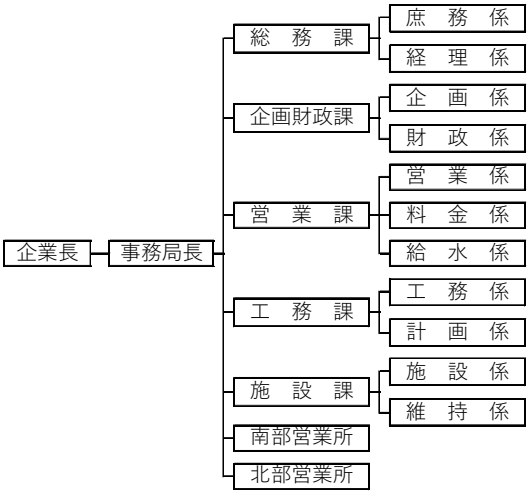
昭和50年度



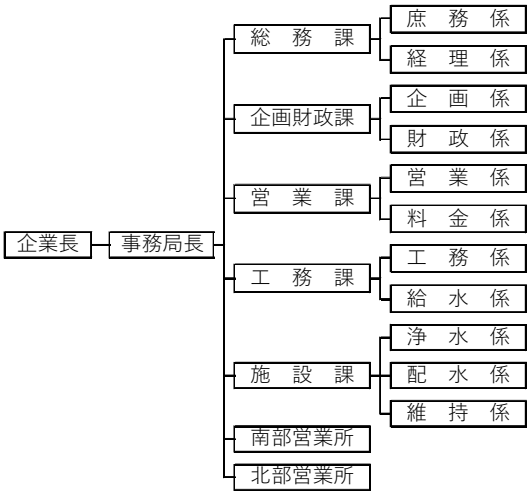
昭和51～52年度



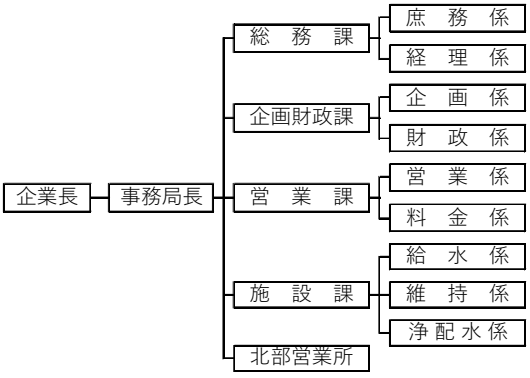
昭和53～54年度



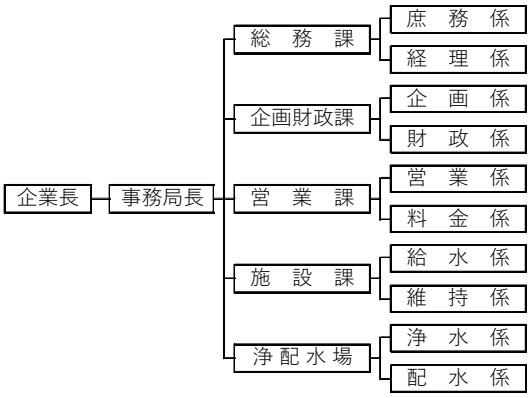
昭和55～56年度



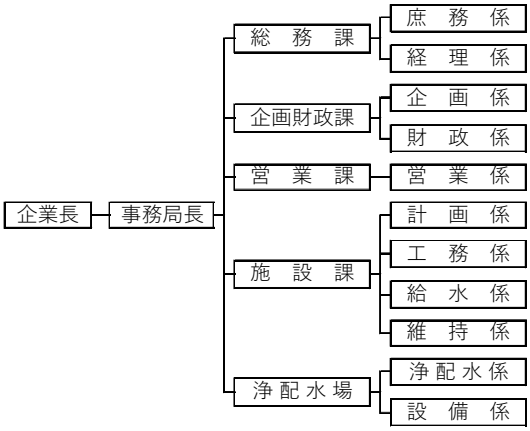
昭和57～59年度



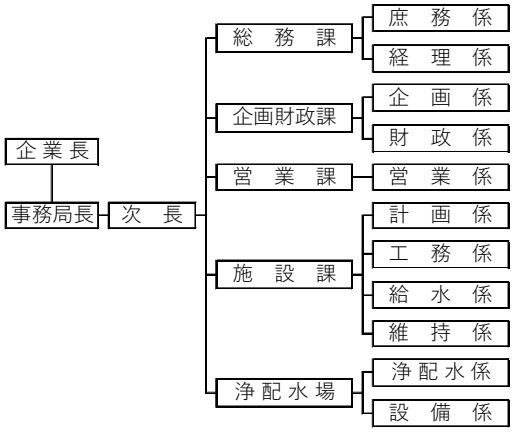
昭和60~平成2年度



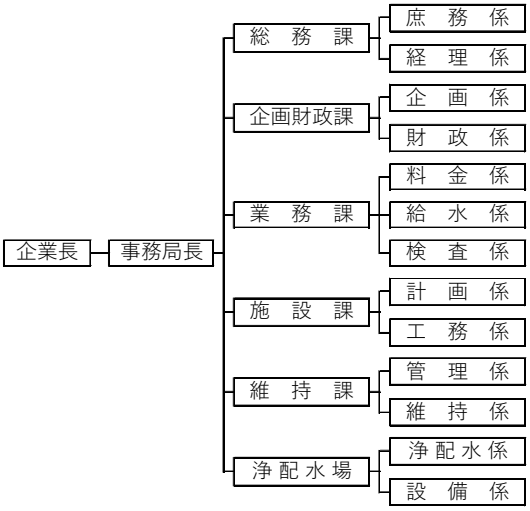
平成3年度



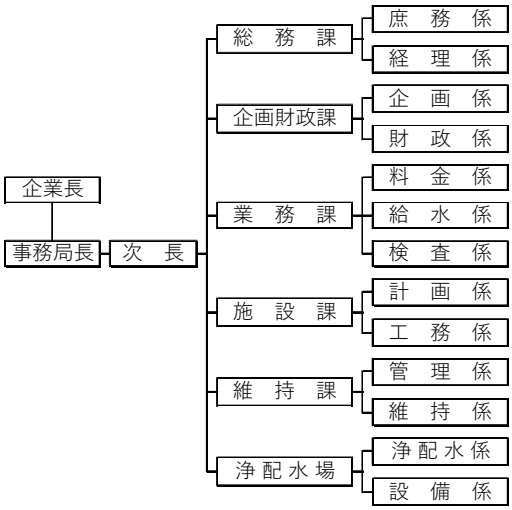
平成4～5年度



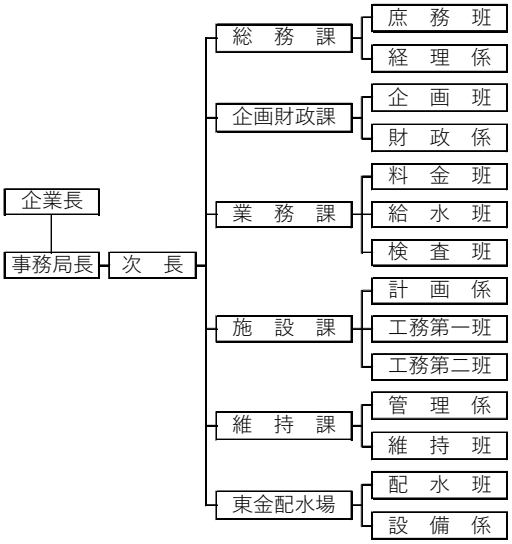
平成6～11年度



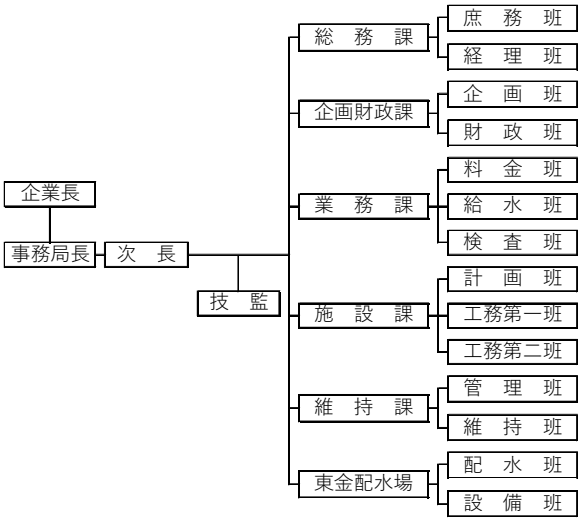
平成12年度



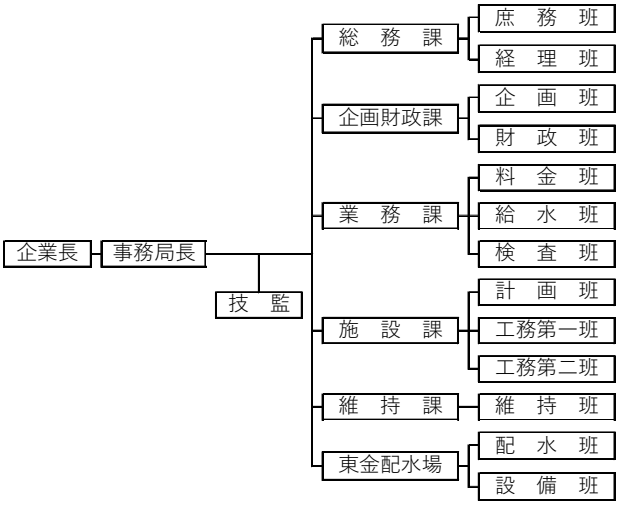
平成13年度



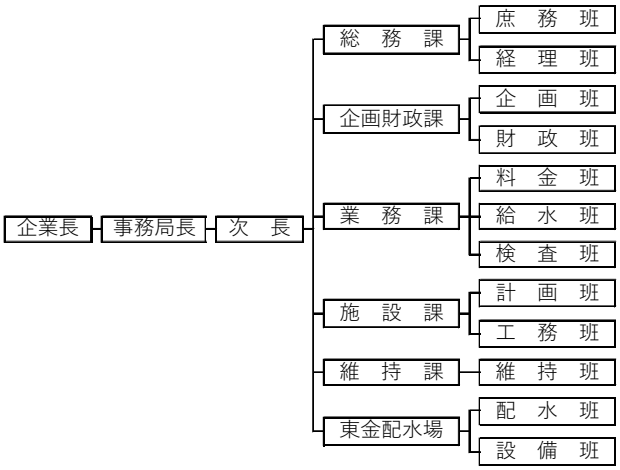
平成14年度



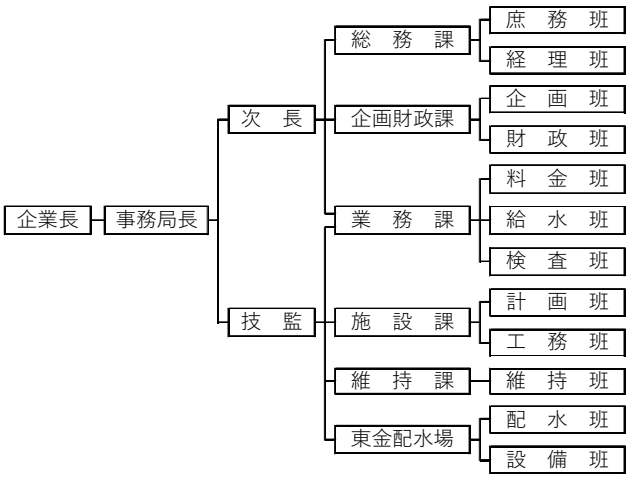
平成15～17年度



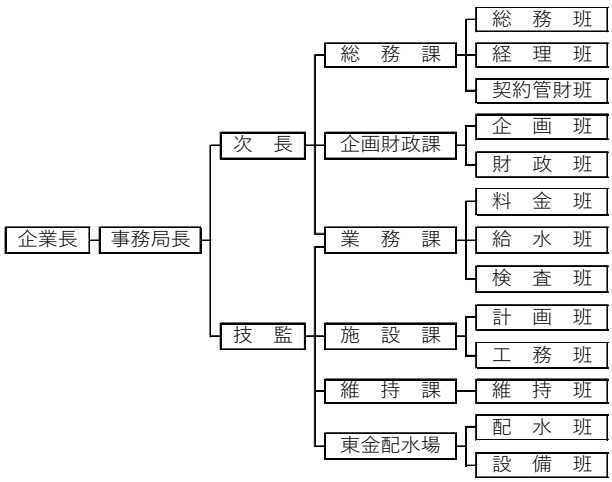
平成18年度



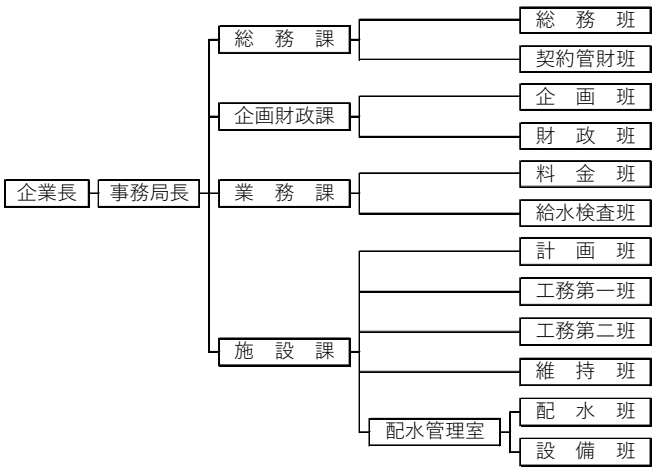
平成19～26年度



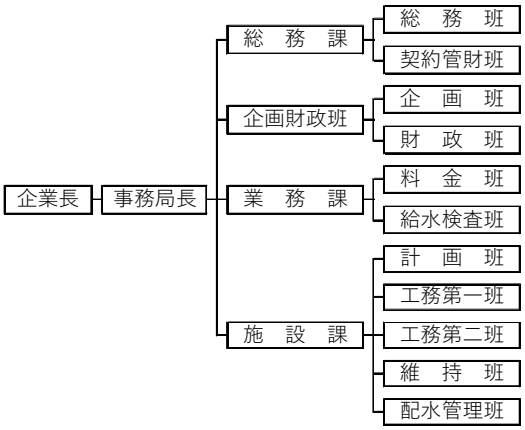
平成27～29年度



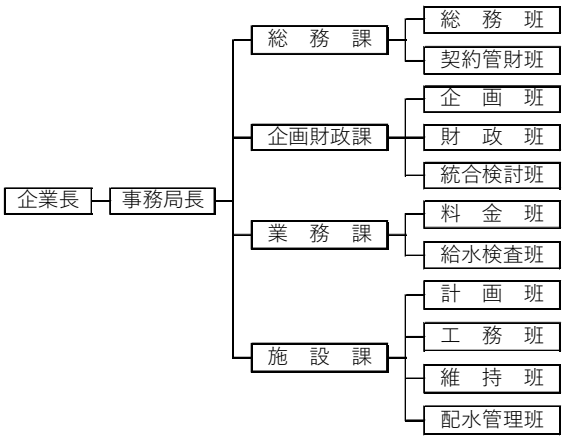
平成30～令和元年度



令和2～3年度



令和4年度～



山武郡市広域水道企業団　50 年のあゆみ
発行日　令和 7 年 3 月
発行元　山武郡市広域水道企業団
東金市家徳 361-8
編　集　五十年史編集委員会

表　紙：松尾配水場 3 号配水池（山武市松尾町蕪木）
裏表紙：山武郡市広域水道企業団事務局（東金市家徳）

50th
Anniversary